



漕 魂

33号

平成23年度

長崎大学医学部漕艇部

漕 魂

33号

平成23年度
長崎大学医学部漕艇部

18

19

20

卷頭言

我等が六歳を契る

絢爛の其の宴は実に過ぎ易し

然れども見ずや先達の嚆矢、

古りて猶燦然として輝き

我等が矜持、久遠に逸せざるを

友達よ、然に明日の運命を嘆かんよりは、

此の虞美露々丘に集いて、

去りては再び歸らざる

若き日の感激を謳わん。

漕魂の歌

作詞：今里雅之

作曲：岩谷 怜

一、 街を離れ ひたすらに

子々川の海へ 滑り出す

心地良い風 潮の薫り

キャッチロー キャッチロー

にじんだ汗が 流れだす

パドル行こう さあ行こう

二、 水を切り 走る崎陽の

シユルルと放つ 快音は

朝もやの海に 似合っている

キャッチロー キャッチロー

心待つのは 安らぎの

オールメン イージーオール

オールメン イージーオール

三、 スタート前の 緊張が

競り合う 気概と足蹴りに

ピッチを上げろ コックスの声

キャッチロー キャッチロー

燃え尽きんと 漕ぎ続け

ああ喜びの トップゴール

琵琶湖周航の歌

作詞・作曲：小口太郎

我は海の子 さすらいの

旅にしあれば しみじみと

昇る狭霧や さざ波の

滋賀の都よ いざさらば

松が緑に 砂白き

雄松が里の 処女子は

赤い椿の 森陰に

はかない恋に 泣くとかや

波のまにまに 漂えば

赤い泊火 懐かしみ

行方定めぬ 波枕

今日は今津か 長浜か

瑠璃の花園 珊瑚の宮

古い伝えの 竹生島

仏の御手に 抱かれて

眠れ処女子 安らげく

目次

〈ご寄稿〉

〈東日本大震災における医療支援報告書〉

田中 邦彦 先生…………… 2

〈活動報告〉

昨年度主将挨拶（大井）…………… 12

新主将挨拶（竹田）…………… 13

新入生紹介…………… 14

平成二十三年度試合結果報告…………… 17

平成二十三年度コックス記…………… 25

部員雑感…………… 43

平成二十三年度収支報告…………… 56

〈OB会〉

長崎大学医学部漕艇部OB会会則…………… 57

長崎大学医学部漕艇部OB会会員名簿…………… 58

長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿…………… 68

長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿…………… 69

長崎大学医学部漕艇部現役部員名簿…………… 70

〈編集後記〉

…………… 72

〈ホームページ紹介、OBメーリングリスト〉案内…………… 71

くご寄稿

東日本大震災における医療支援報告書

(岩手県上閉伊郡大槌町弓道場避難所にて)

長崎大学医学部薬理学教室

長崎大学医学系教員会議代表

田中 邦彦

私、長崎大学医学部薬理学教室教員、長崎大学医学系教員会議代表の田中邦彦は、三月二十五日から三月二十九日まで、岩手県上閉伊郡大槌町弓道場避難所において医療支援を行いました。この支援は、ポート部OBの山本太郎先生が始められ、市川辰樹先生も第一陣として参加されました。今回の支援につきまして、ご報告させていただきます。

一、はじめに…地震・津波発生、長崎大学災害医療支援、派遣までの経緯

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分ごろ、三陸沖、深さ二十四kmを震源とするマグニチュード9.0、最大震度は宮城県栗原市で震度7という、国内観測史上最大の「東日本大震災」が発生しました。その後、北海道から千葉にかけて大津波が押し寄せ、特に岩手県、宮城県、福島県の三

県では海岸沿いの集落や河口周辺から上流に向け数キロメートルにわたり広範囲が水没するなどの甚大な被害が出ました。町によっては、それに続く大火災も発生し、被害を拡大しました。

長崎大学では、片峰学長の指揮のもと、震災発生直後から迅速に災害医療支援を開始しました。長崎大学病院DMATが十二日には宮城県に入り、トリアー及び救護活動を実施しました。福島原発事故に伴う放射能漏れに対し、長崎大学病院国際ヒバクシャ医療センター及び原爆後障害研究施設の医師らが福島県に入り、緊急ひばくしゃ医療対応を行いました。また、長崎県の要請により水産学部附属練習船「長崎丸」を福島県いわき市及び岩手県宮古市に派遣し、支援物資の輸送を行いました。長崎大学医学部法医学教室は、福島県相馬市及び南相馬市における死体検案業務を行いました。地域における医療救援拠点活動としては、十六日に岩手県上閉伊郡大槌町に山本太郎先生を代表とする第一陣が到着し、避難所における医療支援を開始いたしました。

私は、国立独立法人の医学部に勤務する者として、長崎大学医学系教員会議代表として、一医師として、自分なりに何か被災された方々にできることはないかと考え、個人的なつても頼り、長崎大学が展開している岩手県上閉伊郡大槌町での医療支援活動にボランティアとして赴くことに決めました。私が所属いたします長崎大学医学部薬理学教

室の丹羽正美教授のお許しを得て、長崎大学総務部に、その旨お伝えしました。すぐに総務部より連絡があり、学長判断でボランティアでなく正式な大学派遣として処理したいとの申し出がありました。所属機関長であります松山俊文医学部長から最終的に許可をいただき、大槌町への長崎大学第三陣派遣チームに医師として加えていただくこととなりました。

二、田中個人の派遣日程と長崎大学派遣チーム第三陣要員

〈日程〉

三月二十四日(木) 午後七時、長崎発のJAL1854便で羽田へ、東京泊

三月二十五日(金) 熱帯医学研究所山本太郎教授その他二名と合流し、レンタカーで岩手県へ、大学病院チームと遠野市で合流し、大槌町弓道場避難所へ、夕方より同避難所にて医療活動開始

三月二十六日(土) 同避難所にて医療活動

三月二十七日(日) 同避難所にて医療活動

三月二十八日(月) 同避難所にて医療活動

三月二十九日(火) 同避難所にて医療活動、午後三時をもって、長崎大学チーム撤収、遠野市経由で東和町泊

三月三〇日(水) レンタカーで東京まで移動、午後七時十分 羽田発1857便で長崎へ

〈長崎大学派遣チーム第三陣要員〉

山本 太郎 (長崎大学熱帯医学研究所教授、医師)

中村 洋一 (長崎大学病院第二内科、医師)

本田 智治 (長崎大学病院脳卒中ユニット、看護師)

田中 邦彦 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、医師)

池田 理恵 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、薬師)

猪飼 桂 (長崎大学熱帯医学研究所、大学院二年)

加藤 昌哉 (WHO Medical Officer, HIV/AIDS Care

and Treatment、ボランティア)

本田 志保 (長崎大学東京事務所、事務職員)

三、大槌町まで…移動中の見聞

東京よりレンタカーで、埼玉、茨城、栃木、福島、宮城、岩手に入りました。東北自動車道は補修が済み、石巻まで開通しておりましたが、途中数え切れないほど段差があり、速度規制が敷かれていました。何回か休憩したサービスエリアでは、レストランは休業し、軽食を提供するエリアもラーメンのみのメニューという状態でした。ガソリンスタンドのあるサービスエリアでは、ガソリン不足のために一般道のガソリンスタンドがすべて休業しているため、近隣住民がわざわざ高速のガソリンスタンドに給油に来るという状態で、何百台という車が列をつくり給油を待っていました。岩手県で一般道に入りましたが、長崎大学が活動拠点基地をおいていました遠野市は内陸のためほとんど被害



被災前の大槌町航空写真（国土地理院提供）

がないようでした。遠野市から大槌町までは釜石市を通過しなればなりません、釜石市は大槌町と同様に町中心部が津波で壊滅状態であり、ただただ呆然として瓦礫と化した町を見て過ぎるばかりでした。

四、大槌町

私達が実際の医療支援活動を行いました大槌町は、岩手県の太平洋沿岸、釜石市より車で北に三〇分ほどといったところにあります。漁業及び水産物加工業を主とする町で、

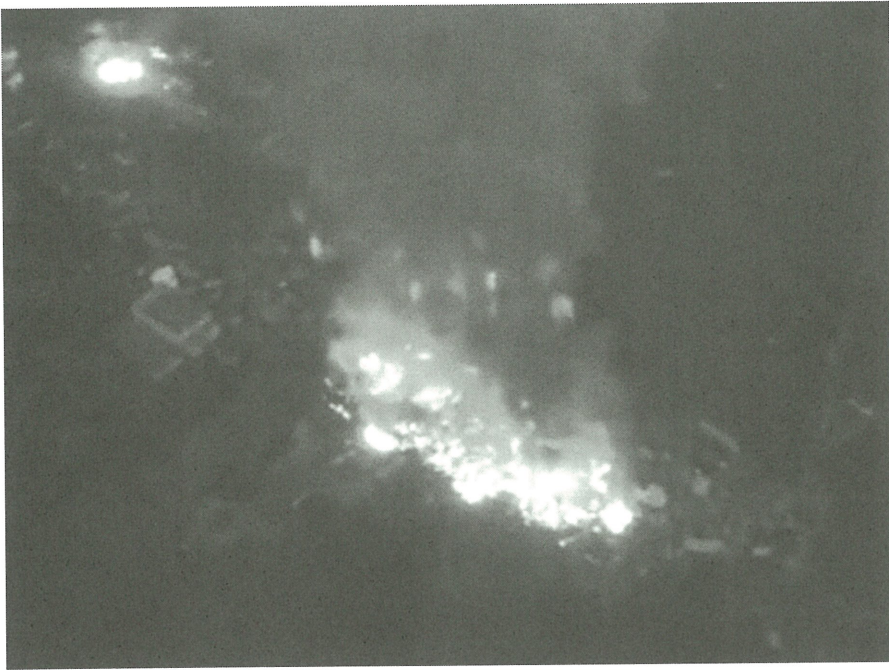


大槌町を襲った津波第一波（植田美智子様撮影）

港を中心に町の中心部が広がっています（被災前の写真参照）。

人口は、被災前は一五、二五六人ですが、過疎化の波が押し寄せており、高齢化も進んでいたようです。

大槌町は、今回の地震そのものでは、さほど大きな被害は受けませんでした。地震から約三〇分後、大津波が町を



津波後に発生した大槌町の火災（読売オンラインより）



津波が引いたあとの大槌町の様子（田中邦彦撮影）

襲いました。最低でも八メートルの波が少なくとも二回押し寄せたと聞きました。この津波により、写真にうつる町の中心部は全域が水没し、その高さは家の二階から三階に達しました。また、津波は川に沿って上流へと駆け上がり、川の沿岸の家々は、一階がすべて水没しました。その結果、大槌町の全面積の約五〇％（約二万平方キロメートル）が

水につかりました。その後、ガソリンスタンドあるいは灯油給油所を中心として何ヶ所かで大火災が起き、広範囲を焼き尽くして翌日自然鎮火しました。

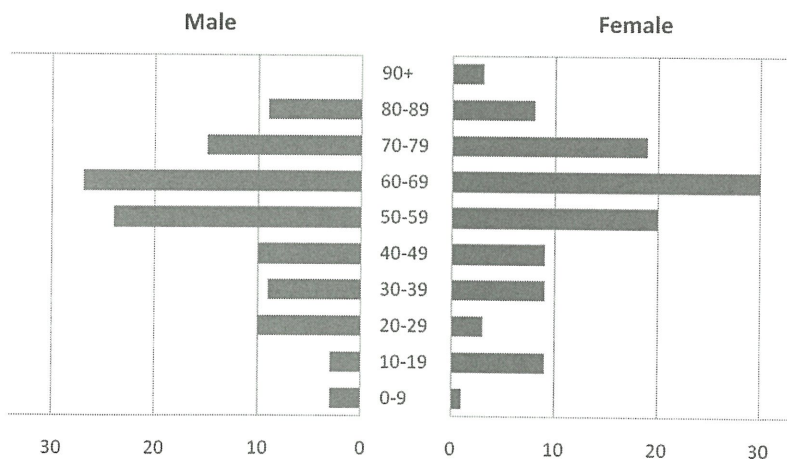
町の中心部は、木造の家々は土台を残してすべて津波に押し流され、一部の鉄筋の家のみが散在して残っていました。鉄道が走っていました。これも線路ごと押し流され、橋げただけが残っていました。車、家の屋根、壁、家具、看板、あらゆるものが津波にのみ込まれてそこら中に撒き散らされ、海水と油の混じった悪臭と、火災による焼けた臭いが充満していました。

今回の震災により、大槌町は三月二十六日現在で、避難者数四七七八人、遺体収容数五〇八人、行方不明者数九八九人と発表されています。町は、自衛隊によるがれきの撤去によって主要な道路の回復は図られましたが、生存者の確認が終了したのみで、家の、というよりがれきの下に残る死者の数は、確認とともにこれから増えるものと考えられます。

五、避難所

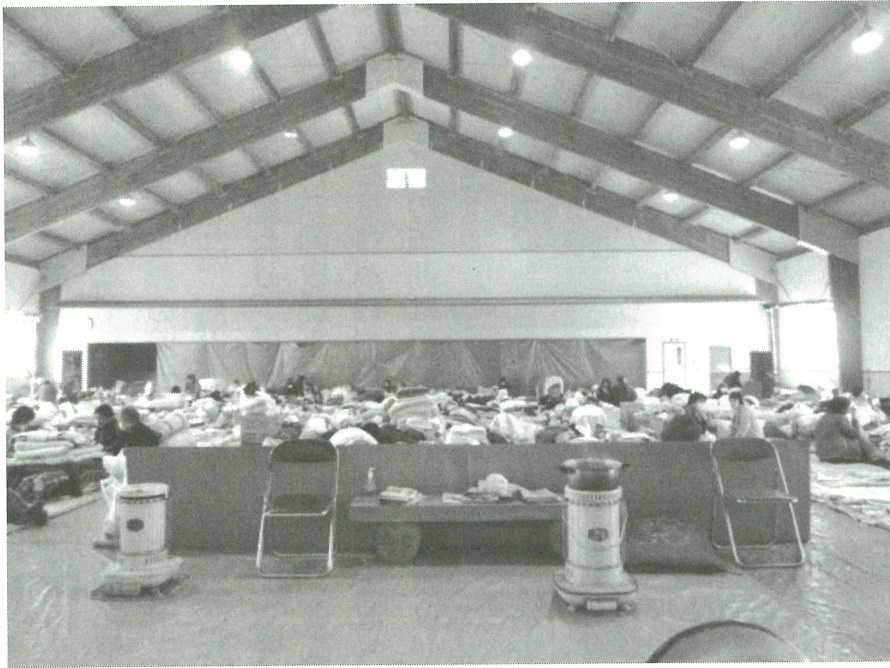
大槌町では、被災後、高台あるいは内陸に入った数ヶ所に避難所が設けられました。我々が活動した大槌町弓道場避難所は、川に沿って内陸に約二キロ上がった場所にありました。体育館やグラウンドに隣接しており、体育館は遺体安置所として、グラウンドには救援物資の倉庫と自衛隊

による入浴施設が設営されていました。弓道場自体は、小さな小学校の体育館ほどの規模がありました。下が土です。各々がその上に敷物を敷いて避難生活を始めたそうです。我々が入ったときには、すべてにブルーシートが敷き詰められ完備されていました。被災直後はこの避難所に約八〇〇人が避難したようですが、長崎大学第一陣が入ったときには約四〇〇人、我々が入ったときには約二五〇人の方々が避難されました。構成としては、この避



大槌町弓道場避難所の人口構成 (加藤昌哉氏作成)

難所では幼少児は比較的少なく、六〇歳以上が約半数を占め、九〇歳以上も数人いらっしやいました。避難所内で、おおまかに元々住んでいた地区別にブロックで分かれ、パーティーションのようなしきいもせず生活していました。当初より避難者の中からリーダー役を務める人が数人集まり、役場からのひとりと力を合わせて、ラジオ体操、食料



大植町弓道場避難所内部の様子（田中邦彦撮影）

の配給、連絡事項の伝達、掃除などの役割分担決めなどを
されていた。

ライフラインとしましては、我々が入った二十五日現在
で電気は避難所には通じ、その二日後には市街地の一部に
も通じました。水道は自衛隊からの給水車に頼った状態の
ままであり、飲水は問題ないが手洗いがまったくできない
ため、トイレ後はアルコールで毎回手指を消毒するようにな
っていました。入浴は、我々が入る数日前に自衛隊によ
る入浴施設が完成し、毎日入浴できるようになっていまし
た。電話は玄関前に被災者用の緊急電話が二台設置されて
いましたが、携帯電話は、我々の最終日にやっと避難所内
でも通じるようになりました。暖房は当初薪ストーブ二台
だけだったそうですが、その後灯油ストーブが五台ほど設
置されておりました。テレビも、我々の最終日に一台設置
されました。

食料は、我々が入ったときはすでに多量の救援物資が届
いた時期であり、朝昼晩三食支給されていました。ただ、
朝におにぎり一個と缶詰ひとつ、昼にカップラーメンとい
った状態で、アルファ米や自衛隊炊き出しのお米のときも
ありましたが、暖かい食べ物と肉類、特に生野菜が不足し
ていて、非常に偏りがあると感じました。

六、医療支援活動とチームメンバーの生活

我々第三陣は、避難所に到着した三月二十五日夕より医

療活動を開始し、ご本人も避難者でありながらも、避難当初からこの避難所で診療を継続されてきた植田医院の植田俊郎先生の診療を分担して行いました。植田先生は地震発生時、四階建てのご自分の医院で午後の診察中で、地震発生直後、具合が悪くなつた近隣の患者さんの往診に向かわれました。往診が終わり、医院の玄関で奥様や看護師さんたちとお話をされているとき、奥様が遠くから迫ってくる波のようなものに気づかれました。全員で三階へ上がったのと同時に、医院の周囲は津波にのまれ、水位が上昇するため、皆で屋上まで避難されました。そこから見る町は、ほとんどの家々が水没し、まるで海の中に自分たちが取り残されている感じだったそうです。当日の夕方、近くから突然火の手が上がり、たちまち大火災になって、爆発しながらいくつものプロパンタンクが水の上を流れていったそうです。その晩は屋上で皆で励まし合いながら一夜を明かし、翌日の昼、自衛隊の捜索ヘリコプターに皆救助され、避難所に移動されました。その際は、往診カバンとAEDだけしか持っていなかったそうです。それでも避難所に入られると同時に、ご自分で長テーブルとイスを運んでこられ、ただちに避難されている方々の診療を昼夜を問わず始められました。

第三陣の診療体制としましては、植田先生、第二内科の中村洋一先生、私の三診体制で、植田医院の看護師さん、本田看護師、薬剤師の池田先生とチームを組んで、二十四

時間体制で患者さんたちの診療にあたりました。診療スペースには、聴診器、ライト、血圧計、体温計、舌圧子、血糖測定器、インフルエンザ判定キットなどがそろっており、横に点滴用のスペースを設けてありました。その後、パルスオキシメーターがはいり、スクリーニング用のノロウイルス判定キットを、岩手医大感染症センターの医師が提供してくれました。中村洋一先生が簡易吸入器を持参され、気管支喘息の患者さんに使用いたしました。薬剤は、基本薬はそろっており、輸液や点眼薬、軟膏類も最低限の種類は準備されていきました。ただ、チラージンスなどの甲状腺ホルモン剤、副腎皮質ステロイド、小児用のシロップや顆粒などはなく、こちらで処方箋を書き、遅れて再開した調剤薬局に持参してもらうことに対応しました。

患者さんは、高齢者が多かったです。ときに小児も診療いたしました。疾患としては、感冒が四割から五割を占め、内服薬切れによる処方希望が三割程度、残りがその他の疾患でした。特徴として、地震による被害が少なく、ほとんどが津波による被害のため、打撲、転倒などによる外傷の患者さんがほとんどいないこと（津波による直接の被害者はほとんどが死亡）、長い避難所生活のためか、感冒薬を内服されてもなかなか症状が改善せず、むしろ悪化する患者さんが多いことがあげられました。一日平均、植田先生が五〇名から六〇名、中村先生が三〇名から四〇名、私が二〇名から三〇名の診療を行いました。避難している

方々は、昼間は自宅の片付けに帰られる方が多いため、診療は朝食後と夕方に集中しました。夜間に起こされることはあまりありませんでしたが、近隣の住民の方で、胸部不快感を訴えられた方と、過換気の方で夜間呼ばれました。そのうち胸部不快感を訴えられた方は、植田先生の判断で至急救急車で搬送されましたが、搬送中に救急車内で心肺停止しAED使用、挿管され基幹病院に運ばれたとその後聞きました。



大槌町弓道場避難所における診療スペース（田中邦彦撮影）

		Number of consultations	Percentage 1)
Total		266	
Date	26 March	90	
	27 March	77	
	28 March	67	
	29 March (-11 AM)	32	
Sex	Female	138	56%
	Male	109	44%
	Data not available	19	
Age	0-4	3	2%
	5-14	8	6%
	15-64	68	52%
	65+	53	40%
	Data not available	134	
Doctor	Dr Ueta	113	43%
	Nagasaki U Doctors (Dr Nakamura + Dr Tanaka)	148	57%

3月25日から3月29日までの
弓道場避難所における診療実績（加藤昌哉氏作成）

我々が診療をしていた間は、インフルエンザの発生はありませんでした。ただ、嘔吐下痢症でノロウイルス感染症を強く疑わせる症例がでてきたため、中村先生を中心に感染症対策を行いました。具体的には、トイレでは、トイレ専用のスリッパに履き替えることで居住スペースにウイルスを持ち込ませないこと、トイレ使用後はアルコール消毒でなく、次亜塩素酸による手指消毒を必ず行うこと、トイレの大便は各自がビニール袋にして縛ったのち、専用の容器に捨てること、トイレ掃除は次亜塩素酸で行うこと、食器の配給担当者は手袋を着用すること、などを徹底しても

らいました。

チームメンバーの生活としましては、四泊、避難所内の診療スペース横で寝泊りいたしました。深夜には気温が〇度を下回るなか、板の間の上に毛布を二枚敷き、寝袋とかけ毛布一枚で寝ました。朝は五時三〇分前後に起床し、七時にラジオ体操、八時に朝食、十二時に昼食、六時に夕食、九時に消灯、就寝という、避難所の方々と同じ生活をいたしました。この間も、昼夜を問わず、患者さんが診療スペースにいらっしゃれば診療を行いました。

七、撤収

長崎大学医療支援チームは、三月二十九日午後三時をもって、岩手県上閉伊郡大槌町弓道場避難所より撤収いたしました。その後の医療体制が心配でしたが、山本太郎教授のご尽力により、岡山県に拠点を置きますNPO法人のAMDA (The Association of Medical Doctors of Asia) が次の日より医師を一名派遣して引き継いでくれることとなりました。

八、最後に

非常に過酷な環境で、満足な診療システムもない中で医療支援でしたが、私個人として大変貴重な体験をさせていただきました。高齢の方々が多い中、長い避難所生活でも争いも起こらず、皆で明るく助け合って暮らしていらつ

しやる岩手の方たち、ご自分たちのほうが大変なのに、「長崎からわざわざ来てくださってありがとうございます」「とお礼を言われるたびに、本当に東北の方々のあたたかさとお慢強さにただただ頭が下がる思いでした。また、長年大槌町の地域医療を支えていらつしやうした植田先生が、ご自分も長い避難所生活を続けながら、今後ご自分の医院や生活がどうなるかも全くわからない中、一生懸命地域住民の方たちのために診療を続けられている姿をみて、「本当の医師」とはなんなのか、その答えを見つけた気がいたしました。

ただ気がかりなのは、長い避難所生活の中で、高齢者が突然めまいで倒れたり、高熱と脱水で点滴を受ける患者さんなどが少しずつ増えてきたことです。避難所は一度も清掃されていませんし、手洗いもできない、食事のバランスも偏っている、十分な睡眠がとれない、ほとんどの方々が家族のどなたかを震災で亡くされているのに精神的ケアもないなど、劣悪な環境のなかです。三週間以上生活されています。避難されている方々は疲労し、その体力はすぐ限界にきていると感じました。このような状態でインフルエンザやノロウイルス感染症、肺炎などが流行すれば、特に高齢者はもたないと思われました。私達は、第一陣から第三陣まで医療支援を行いました。もつと息の長い、二一に即した有効的にかつ多面的な支援が必要と考えます。医療に関しては、地方の医師会を中心として、日本医師会

のバックアップのもと、開業医の先生方への支援と基幹病院の建て直しが急務です。また、このような医療現場での診療による底支えも必要ですが、それと並行して、町の復興再生のために、医療、保健、産業経済、公共整備、様々な面から防災を含め中長期的なプランを立て、それを実行していくシステムづくりが何より求められていると思います。

私達を含め今回の震災で被災しなかつた地域に住む方は、寄付やボランティアをしても結局自己満足なのではないか、自分たちだけおいしいものを食べ、ぬくぬくと温まり、何不自由ない生活を送ることに罪悪感を覚え、自己嫌悪に陥る人が増えていると聞きます。私も、今回の活動がただの自己満足に過ぎないのではないかと考えるときもありますし、そういうご批判を受けることも覚悟しております。物事が正しかつたかどうかは、その時だけでなく、それを常に自分に問い続けること、そしてただ問い続けるだけでなく、その問いに対して更に行動し続けることでしか明らかにできないと考えています。

最後に、今回長崎大学第三陣チームとしてご一緒させていただいたチームメンバーの方々に、心より感謝いたします。私は、医師免許は持ちながらも教育と研究を主とする医学部基礎の教員のため、皆様に多々ご迷惑をおかけしたと思いますが、皆様の支えにより助けられました。このメンバーと一緒に働けて幸せでした。本当にありがとうございました。

いました。また、今回の派遣を認め支援してくださった、片峰茂学長、松山俊文医学部長、丹羽正美教授に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今回東日本大震災で被災された方々、特に岩手県上閉伊郡大槌町弓道場避難所の方々、植田俊郎先生と植田医院の方々が、一日も早くおだやかで幸せな生活を取り戻されることを、ただただ心より祈念いたします。私たちは、そのための支援を惜しみません。

《活動報告》

◆昨年度主将挨拶◆

四年 大井隆之介

昨シーズン漕艇部主将を務めさせていただきました、大井隆之介と申します。まず始めに、昨シーズンも多くのおBの先生方より多大なるご支援・ご協力をいただきましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。また、夏の西医体・インカレで満足いく結果を出すことができません、先生方の期待に応じることができなかつたこと、大変申し訳なく思っています。主将として重大な責任を感じております。

さて、ここからは昨シーズンを振り返りたいと思います。シーズンを通して改善してきたのは次の二点です。一点目は、練習メニューを今まで以上に強化したことです。十月よりシーズンが始まりましたが、基本は週十一モーシヨンの練習量を全員がこなし、筋力強化を試みました。その結果、多くの部員が成果を上げることができ、五月の九州朝日レガッタにおいてA・Bクルーが一位・二位を独占するなど、確実に力をつけていることを証明できたと思います。二点目は、怪我人がほとんど出なかつたことです。シーズ

ン中は選手一人一人が自主的にストレッチを徹底したことで大きなけがをすることもなくシーズンを通して満足のいく練習を行うことができました。

しかしながら、夏の大会を終えて改めて他大学との大きな差を感じるようになりました。その中の一つに体格の面での差が大きいことが挙げられます。他大学では体重七〇kgを超える選手が多いのに比べ、長崎大学は平均体重六〇〜六十五kgと細く体格的に他大学に劣つてることを痛感しました。エルゴタイムにおいても二〇〇〇mトリアルで六分五〇秒を切り、二〇分トリアルで五四〇〇m以上を漕ぎ通す部員がほとんどおらず、このような状況で試合に勝つことは難しいと感じました。

また、しっかりとした体格を作るためには食事管理も必要だと感じました。毎年インカレでお世話になっている東京外国語大学漕艇部ではマネージャーを中心に栄養バランス・必要な食事量などを厳密に計算した上で食事管理を行い、練習や試合で最高の力を出せるような環境が整っていました。一方、長崎大学では現在食事管理を個人に任ざざるを得ないため、特に一人暮らしの部員は食事に偏りが生じるなど、しっかりとした食事管理をすることは厳しいと感じました。

体格や食事管理についてはとてもすぐに解決できるようなことではないことと理解しています。とにかくその差を少しでも補えるように部員一人一人が自己管理を行い、練

習に励む中で自己の能力を高めていく努力を続けていってほしいと思います。

最後に、ボート部で過ごした三年半は苦しいこともありましたがとても充実していて、自分の人生で忘れることのできない一生の宝物になりました。これまで試合のある毎に励ましのメールや電話をくださったOBの先生方や六年の先輩方、引退された後ポリクリなど毎日忙しい中練習を夏まで手伝って下さった五年の先輩方、毎日つらい練習の中ずっと必死についてきてくれた後輩達、そして何よりもこの一年間主将である自分を一番近くで支えてくれ、また三年半ボート部で共に頑張ってきた四年幹部のみんな、本当にたくさんの人たちに支えられこの一年間充実したシーズンを送ることができました。本当にありがとうございます。今後、少しでも良い結果が残せるよう現役部員一同精進してまいりたいと思いますので、これからも温かく見守って下さいますようお願い申し上げます。

◆新主将挨拶◆

三年 竹田 一博

二〇一一年九月より長崎大学医学部漕艇部主将を務めさせていただくことになりました、竹田一博と申します。

西医体では予選一位通過で決勝五位、インカレではあと一步で準決勝という惜しい結果でした。多くの期待が寄せられていたのにも関わらず、満足のいく結果が出せず非常に残念です。しかし長崎大学医学部漕艇部は着実に力をつけてきています。それは火を見るより明らかです。来年こそはこの力を活かし良い結果を報告できるように努めてまいります。

良い結果を残すための反省点としまして、昨シーズンは西医体とインカレ両方出場することで、どっちつかずの結果となってしまうので今シーズンはどちらかに絞ってこうという話になり、クオード、ダブルのようなスカル種目はインカレに、それ以外は医学部の大会に行くことになりました。スカルをインカレに出す理由として、フィットネスが低く、まだまだ漕歴の浅いクルーが身体的負担が大きく技術的に非常に難しいスイープ種目で、高校からボート競技を行い、感覚的に優れ、フィットネスレベルが格段に違う選手が出場するインカレに出ることは、ディスプレイバンテージを初めから背負って出るようなものだからです。またスイープ種目は個人の力をスピードに変えることが難しくペアの力をスピードに変える種目であるのに対しスカルは個人の力をスピードに変えることは容易です。さらに、スイープ種目はクルー間のズレも基本的に相乗作用へ変換されやすく、また成果が不安定で、結果が読みにくいためです。

また、オフシーズンでは昨シーズンに足りなかった出力を上げるために主に筋トレを中心とした練習を行っていくことでシーズンにつながることに意識を置いて行きます。これからは、先輩方が培ってきた伝統を継承し、そして新しい風を吹き込み、長崎大学医学部漕艇部が更に発展するよう部員全員が切磋琢磨し、長大医学部ボート部に所属していることを誇りに思えるような部活を目指して頑張っていくかと思っておりますので、今後部への温かいご声援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

以上、乱筆にてお見苦しいこととは存じますが、新主将挨拶とさせていただきます。

◇新入生紹介◇

新垣 慶人

流石は沖縄人、地味に酒に強い島人。中高時代はサッカーに勤しんでいたが、ボート部の飲み会のテンションに惚れ込んで入部宣言したノリのとてもよいやつである。大学入学後はボート部一年のチャラ男三人衆と共に日々合コンに繰り出す毎日で、最近では某B部のマネージャーとうまくいってるとか：早く女の子の方も落ち着いてボート頑張ろうな！

(文責 有賀)

上原 祐規

上原祐規は真面目な男です。アロハシャツを身にまとい、自慰行為を忌み嫌い、虫を食べる。まさに仙人です。

彼はボートにも合コンにも真面目に取り組みます。コックスとして誰よりも大きな声を出し、合コンでは身を削って闘う、熱い男です。

真実の愛を見つげるために、頑張れ、上原！

(文責 池田)

兎島 知仁

真面目だがのりの良さはピカイチな一年生。

ひとたび子々川へこぎだせば熱い漕ぎと驚異的なパワー、スタミナで上級生たちを脅かす前途有望なボート選手へと姿を変えつつある。

技術面に不安があろうと彼の頑張りできつと乗り越えられるに違いない!!

(文責 福田)

西原 新也

今年のオタク枠。出身校は青雲中・久留米附設高校とめずらしい。青雲高にそのまま進んでいれば同級生だったかも知れない。もつと早くに知り合っていたらもつと二宮はもつと廃人になっていたことだろう(笑)。

一緒の艇に乗ったのは、全日本新人選手権に向けた付ペアクルーでの二週間だけではあったが、コックスとして二年のローヤーをしつかりと引っ張ってくれた。逆に二年の方が頼りなかったかも知れない。ボソッと発するSっぽい言葉からはコックスとしての才能が感じられた。

新人戦後の秋葉原観光では、一人で秋葉原の電気街へと消えていってしまった。ボート部をオタク色に染めようと、朝練の車の中でアニソンやポカロ曲を流したり、厳選CD

を同級生に貸したりとがんばっている。

一年の中では珍しく、スイープ・スカル・コックスをすべて経験している万能な男である。先輩からエロゲを借りるのでもいいが、もつとボートを漕いで長大ボート部を引っ張ってくれ!

(文責 二宮)

水野 弘士

新人クルーの頃から朝野さんの筋トレに対する熱い想いを引き継ぎ、日々筋トレに励むナイスガイ。独自のメニューでひたすらガチムチを目指します。『ほろよい』一口でがちよいしてしまうという可愛い一面も持ちつつ、誰にも負けないガッツで今日もベンチプレスに向かいます。乗艇のセンスもピカイチでコーチに大きく買われるほど。未来のエースとなる事に期待!

(文責 川口)

牟田 龍史

その朴訥な佇まい、ゆつたりとした口調が某先輩にそっくりであり、入部当初から恰好のいじられ役として活躍、今や我らがボート部のナンバーワンアイドル的存在となった牟田くん。

普段はとつてもマイペースで癒し系の彼も、ボートの上では時に雄叫びを上げながら、その長身を活かしたハイレンジでパワフルな漕ぎを見せてくれる。

一方では蚊一匹の殺生すら許さない、菩薩のような慈悲の心をもつ優しい青年でもあり、虫を主食にしていることで一世を風靡した某新入部員とは水と油のような相容れない関係となっている。

まだまだ無限の可能性を秘めた男であり、これからの活躍が非常に楽しみである。

(文責 佐藤)

平成二十二年 度試合結果報告

●九州・山口医科学生体育大会(二〇〇〇m) 於班蛇口湖

小艇ポイントレース一回戦

- 2 菊田(長崎) 四分四八秒一八 三位
- 3 七條(佐賀) 四分二一秒二七 一位
- 4 木村(熊本) 四分二二秒六二 二位
- 5 飛燕(2×)(熊本) 三分五一秒二三 一位

小艇ポイントレース二回戦

- 2 飛燕(2×)(熊本) 三分五九秒八五 一位
 - 3 菊田(長崎) 四分五八秒一四 三位
 - 4 七條(佐賀) 四分三一秒七八 一位
 - 5 木村(熊本) 四分三五秒五三 二位
- 菊田はシングル部門三位

一般男子舵手付フォア 予選B組

- 3 新型プリウス(熊本) 四分〇一秒一六 二位
 - 4 普賢(長崎) 四分〇九秒五七 三位
 - 5 崎陽(長崎) 三分四四秒九九 一位
- 普賢は予選敗退

一般男子舵手付きフォア 決勝

- 2 崎陽(長崎) 三分五二秒一六 二位
 - 3 浮立(佐賀) 三分五四秒二二 三位
 - 4 新型プリウス(熊本) 四分〇七秒〇三 四位
 - 5 筑水(久留米) 四分二九秒五六 五位
 - 6 龍神(熊本) 三分五〇秒九七 一位
- 崎陽は部門二位

対校男子舵手付フォア 予選

- 2 阿修羅(熊本) 三分四六秒三二 二位
- 3 篠山(久留米) 四分〇五秒〇四 四位
- 4 鵬翼(長崎) 三分三九秒六〇 一位
- 5 日向Ⅲ(宮崎) 三分五五秒六三 三位

対校男子舵手付きフォア 決勝

- 1 日向Ⅲ(宮崎) 四分〇四秒九一 四位
 - 2 煌牙(産業) 四分一五秒二三 六位
 - 3 阿修羅(熊本) 三分三八秒九一 一位
 - 4 篠山(久留米) 四分一二秒四七 五位
 - 5 雷光(佐賀) 三分四四秒八五 三位
 - 6 鵬翼(長崎) 三分四四秒三七 二位
- 鵬翼は部門二位
長崎大学の総合成績は三位

●九州朝日レガッタ

(一〇〇〇m、ナックルフォアは五〇〇m) 於遠賀漕艇場

男子1× 予選C組

- | | | | |
|---|-----------------|---------|----|
| 2 | 梅川 敬悟 (山口大学) | 四分五〇秒五五 | 三位 |
| 3 | 菊田 龍 (長崎大学医学部) | 六分〇三秒八〇 | 五位 |
| 4 | 森 雄二郎 (鳥取大学医学部) | 五分二一秒八三 | 四位 |
| 5 | 大住元 航 (愛媛大学) | 四分三八秒〇八 | 一位 |
| 6 | 白井 陽 (九州工業大学) | 四分四八秒二五 | 二位 |

男子1× 敗復A組

- | | | | |
|---|-----------------|---------|----|
| 1 | 杉本 英司 (鳥取大学医学部) | 六分〇六秒七三 | 五位 |
| 2 | 伊藤 慶 (鳥取大学医学部) | 五分三三秒五一 | 四位 |
| 3 | 梅川 敬悟 (山口大学) | 五分一二秒三六 | 二位 |
| 4 | 武藤 充孝 (西南学院大学) | 五分〇一秒一〇 | 一位 |
| 5 | 上野 衛 (東筑高校) | 五分一五秒三八 | 三位 |
| 6 | 菊田 龍 (長崎大学医学部) | 六分二二秒一八 | 六位 |
- 菊田は予選敗退

一般ナックルフォア 予選B組

- | | | | |
|---|------------------|---------|----|
| 1 | 久留米大学 篠山 | 三分〇三秒六六 | 六位 |
| 2 | あげぼよ (佐賀大学医学部) | 二分三六秒一〇 | 四位 |
| 3 | 河内ローイングクラブ | 二分一〇秒六九 | 一位 |
| 4 | エスポワール (佐賀大学医学部) | 二分二三秒六七 | 三位 |
| 5 | 長崎大学医学部 崎陽 | 二分四七秒六六 | 五位 |
| 6 | 九州工業大学 A | 二分一九秒五三 | 二位 |

一般ナックルフォア 予選D組

- | | | | |
|---|----------------------|---------|----|
| 1 | 宮崎大学医学部 不死鳥 (フェニックス) | 二分三五秒九八 | 三位 |
| 2 | 長崎大学医学部 普賢 | 二分三三秒八四 | 二位 |
| 3 | 新日鉄八幡 | 二分一二秒六八 | 一位 |
| 4 | たけし軍団 (佐賀大医学部) | 二分五五秒〇一 | 四位 |
| 5 | 久留米大学 B | 三分五一秒九六 | 六位 |
| 6 | むつじろう | 二分五九秒〇八 | 五位 |

一般ナックルフォア 予選E組

- | | | | |
|---|-------------------|---------|----|
| 1 | 長崎大学医学部 雄凶 | 二分二七秒七八 | 二位 |
| 2 | のすのす (佐賀大学医学部) | 三分〇三秒四三 | 四位 |
| 3 | 福岡教育大学 | 二分一一秒二九 | 一位 |
| 4 | ボート団塊号九州 悠漕会 | 二分三四秒二一 | 除外 |
| 5 | ヤナカーギーズ (佐賀大学医学部) | 三分〇七秒〇〇 | 除外 |
| 6 | 久留米大学 D3 | 二分五一秒二四 | 三位 |

一般ナックルフォア 敗復D組

- 2 長崎大学医学部 崎陽 二分五一秒一三 四位
 - 3 久留米大学A 除外
 - 4 宮崎大学医学部 不死鳥(フェニックス) 二分三一秒一八 三位
 - 5 佐賀大学医学部 水平リーベ僕の船 二分三〇秒九三 二位
 - 6 九州工業大学B 二分二五秒四八 一位
- 崎陽は予選敗退

一般ナックルフォア 準決勝E組

- 3 佐賀大学医学部 あげぼよ 二分二五秒二〇 二位
 - 4 長崎大学医学部 普賢 三分四〇秒七三 四位
 - 5 福岡教育大学 二分〇八秒八九 一位
 - 6 佐賀大学医学部 雷子 二分二七秒六八 三位
- 普賢は準決勝敗退

一般ナックルフォア 準決勝F組

- 3 九州工業大学B 二分二四秒八四 四位
 - 4 長崎大学医学部 雄図 二分一九秒三一 二位
 - 5 新菱A 二分一四秒八三 一位
 - 6 ボくととクラブ 二分二〇秒六二 三位
- 雄図は準決勝敗退

男子舵手付フォア 予選A組

- 3 産業医科大学 煌牙 四分一二秒三九 四位
- 4 山口大学 三分五九秒〇四 二位
- 5 長崎大学医学部 蓋世 三分五二秒三三 一位
- 6 九州工業大学 四分〇〇秒七二 三位

男子舵手付フォア 敗者復活+予選B組再レース

- 2 産業医科大学 煌牙 四分〇五秒五八 五位
- 3 宮崎大学医学部 三分五三秒九八 四位
- 4 長崎大学医学部 鵬翼 三分四六秒四五 二位
- 5 佐賀大学医学部 雷光 三分四五秒四八 一位
- 6 九州工業大学 三分四九秒四二 三位

男子舵手付フォア 決勝

- 1 九州工業大学 三分四五秒五九 五位
- 2 長崎大学医学部 蓋世 三分三七秒七一 二位
- 3 長崎大学医学部 鵬翼 三分三七秒一七 一位
- 4 佐賀大学医学部 雷光 三分三九秒八九 四位
- 5 宮崎大学医学部 三分四九秒四九 六位
- 6 山口大学 三分三九秒三六 三位

●県民体育大会 (1000m + α)

成年男子1× 予選B組

- 1 山口 智文 (熊本学園大学) 四分二五秒三五 三位
 - 2 一箭・フェルナンド・ヒロシ (RC長崎) 四分一九秒三一 二位
 - 3 伊藤 和正 (富山国際大学) 四分一七秒二七 一位
 - 4 菊田 龍 (長崎大学医学部) 四分四六秒四四 四位
- 菊田は予選敗退

成年男子舵手付フォア 予選A組

- 2 雄図 (長崎大学医学部) 五分〇八秒三四 三位
- 3 鵬翼 (長崎大学医学部) 三分五一秒七五 一位
- 4 崎陽 (長崎大学医学部) 四分四六秒六八 二位

成年男子舵手付フォア 予選B組

- 2 蓋世 (長崎大学医学部) 三分五〇秒九〇 二位
- 3 普賢 (長崎大学医学部) 四分二〇秒七二 三位
- 4 長崎RC 三分四七秒七四 一位

成年男子舵手付フォア 決勝

- 1 普賢 (長崎大学医学部) 四分四〇秒二八 四位
- 2 鵬翼 (長崎大学医学部) 三分五三秒八一 二位
- 3 長崎RC 三分五〇秒六八 一位
- 4 蓋世 (長崎大学医学部) 三分五六秒六四 三位

●関西選手権 (2000m)

於浜寺漕艇場

男子舵手付フォア 予選2組

- 1 島根大学 八分〇九秒四八 五位
- 2 大阪大学 七分三一秒六五 二位
- 3 滋賀大教育「天覇」 七分四一秒三三 三位
- 4 関西学院大学A 七分二七秒九六 一位
- 5 長崎大学医学部 七分四七秒五二 四位

男子舵手付きフォア 敗復2組

- 1 甲南大学 八分〇九秒四八 五位
- 2 関西学院大学B 七分五三秒六五 四位
- 3 大阪市立大学 七分二四秒七七 一位
- 4 長崎大学医学部 七分二九秒八一 二位
- 5 名古屋大学 七分四一秒〇六 三位

男子舵手付きフォア 準決勝3組

- 1 大阪市立大学 七分二二秒六四 四位
 - 2 大阪府立大学 七分一二秒四二 一位
 - 3 関西学院大学A 七分一五秒〇一 二位
 - 4 京都大学A 七分一七秒八一 三位
 - 5 神戸大学 七分三一秒九一 五位
 - 6 長崎大学医学部 七分三四秒五〇 六位
- 準決勝敗退

●西日本医科学学生体育大会(二〇〇〇m) 於浜寺漕艇場

シングルスカル 予選A組

1	森(鳥取)	三分五五秒三九	五位
2	木村(熊本)	三分五一秒六二	四位
3	経堂(滋賀)	三分四六秒〇六	三位
4	梅田(鳥取)		棄権
5	菊田(長崎)	三分四二秒九三	二位
6	中村(佐賀)	三分三一秒七三	一位

1×決勝

1	経堂(滋賀)	三分五三秒二一	五位
2	708☆(佐賀)	三分五二秒七二	三位
3	H(滋賀)	三分五八秒五五	六位
4	木村(熊本)	三分五〇秒五〇	二位
5	中村(佐賀)	三分三六秒九九	一位
6	菊田(長崎)	三分五三秒〇〇	四位

菊田は部門四位

新人男子舵手付フォア 予選B組

1	筑水(久留米)	四分三四秒〇二	五位
2	崎陽(長崎)	四分〇一秒一五	三位
3	葉隠(佐賀)	三分五六秒八〇	二位
4	ASTRIA(大阪)	三分四四秒三九	一位
5	ポールスター(久留米)	四分一三秒三四	四位

新人男子舵手付フォア 予選C組

1	希望V(滋賀)	三分四七秒〇〇	五位
2	天照Ⅲ(宮崎)	三分四三秒六六	二位
3	神鷹(佐賀)	三分四六秒五六	四位
4	錯乱BOYZ(浜松)	三分三七秒六八	一位
5	雄図(長崎)	三分四四秒九六	三位

新人男子舵手付フォア 予選D組

1	三成(金沢)	三分五九秒〇〇	三位
2	普賢(長崎)	三分四九秒四二	二位
3	MIRAI(熊本)	四分〇二秒七三	五位
4	敏敏MAX(京都)	三分四八秒六四	一位
5	SPICA(大阪)	四分一〇秒二七	六位
6	麦わらの一味(金沢)	四分〇二秒二七	四位

新人男子舵手付フォア 敗者復活戦B組

- | | | | |
|---|---------------|---------|----|
| 2 | MIRAI (熊本) | 四分三六秒八八 | 四位 |
| 3 | 神鷹 (佐賀) | 四分〇三秒二五 | 一位 |
| 4 | 崎陽 (長崎) | 四分〇五秒七九 | 二位 |
| 5 | el cielo (鳥取) | 四分一五秒六〇 | 三位 |

新人男子舵手付フォア 敗者復活戦C組

- | | | | |
|---|-------------|---------|----|
| 1 | 麦わらの一味 (金沢) | 四分一四秒三四 | 三位 |
| 2 | 雄図 (長崎) | 三分五九秒九八 | 一位 |
| 3 | 待鳥パニック (浜松) | 四分〇三秒四八 | 二位 |
| 4 | 筑水 (久留米) | 四分四一秒八三 | 四位 |

新人舵手付フォア 準決勝A組

- | | | | |
|---|-------------|---------|----|
| 1 | 希望V (滋賀) | 四分〇一秒〇二 | 六位 |
| 2 | 普賢 (長崎) | 三分五三秒一四 | 四位 |
| 3 | 錯乱BOYZ (浜松) | 三分四四秒九九 | 一位 |
| 4 | 敏敏MAX (京都) | 三分五三秒五三 | 五位 |
| 5 | 白虎 (熊本) | 三分四八秒二九 | 二位 |
| 6 | 雄図 (長崎) | 三分五一秒八七 | 三位 |

新人舵手付フォア 順位決定戦

- | | | | |
|---|-------------|---------|----|
| 1 | 普賢 (長崎) | 三分四五秒五八 | 六位 |
| 2 | 葉隠 (佐賀) | 三分三七秒四六 | 一位 |
| 3 | 希望V (滋賀) | 三分四一秒五〇 | 二位 |
| 4 | 神鷹 (佐賀) | 三分四五秒二七 | 五位 |
| 5 | 待鳥パニック (浜松) | 三分四三秒八一 | 二位 |
| 6 | 敏敏MAX (京都) | 三分四五秒三八 | 五位 |

普賢は部門十二位

新人舵手付フォア 決勝

- | | | | |
|---|-------------|---------|----|
| 1 | 白虎 (熊本) | 三分三九秒三三 | 五位 |
| 2 | 雄図 (長崎) | 三分四六秒二五 | 六位 |
| 3 | ASTRIA (大阪) | 三分三〇秒一一 | 一位 |
| 4 | 天照Ⅲ (宮崎) | 三分三五秒〇一 | 三位 |
| 5 | 不死鳥Ⅲ (宮崎) | 三分三六秒六八 | 四位 |
| 6 | 錯乱BOYZ (浜松) | 三分三二秒五九 | 二位 |

一般男子舵手付フォア 予選A組

- | | | | |
|---|-----------------|---------|----|
| 1 | PERSEUS II (大阪) | 三分三六秒一三 | 四位 |
| 2 | 龍神 (熊本) | 三分二七秒四七 | 三位 |
| 3 | 鵬翼 (長崎) | 三分一九秒〇六 | 一位 |
| 4 | 湍 (浜松) | 三分二〇秒三五 | 二位 |
| 5 | 浩輝 (金沢) | 三分四六秒〇七 | 五位 |

一般男子舵手付フオア 予選D組

1	蓋世 (長崎)	三分四五秒二五	三位
2	天風 (岡山)	三分五七秒三七	四位
3	芝蘭 (京都)	三分四二秒五三	二位
4	阿修羅 (熊本)	三分三五秒九〇	一位
5	早良 (福岡)	四分三六秒五七	五位

一般男子舵手付フオア 敗者復活戦B組

1	天風 (岡山)	三分四二秒三八	一位
2	蓋世 (長崎)	三分五〇秒四二	二位
3	龍神 (熊本)	除外	
4	篠山 (久留米)	三分五三秒九六	三位
5	浩輝 (金沢)	四分三〇秒九五	五位
6	one hole for four poles (和歌山)	四分一六秒七六	四位

一般男子舵手付フオア 準決勝A組

1	蓋世 (長崎)	三分二四秒四一	四位
2	暁 (滋賀)	三分二二秒五三	三位
3	鵬翼 (長崎)	三分二一秒一九	一位
4	日向Ⅲ (宮崎)	三分二九秒三四	六位
5	芝蘭 (京都)	三分二一秒五〇	二位
6	TRISTAN (大阪)	三分二七秒六五	五位

一般舵手付フオア 順位決定戦

1	日向Ⅲ (宮崎)	三分二一秒二七	四位
2	蓋世 (長崎)	三分二二秒七二	一位
3	湍 (浜松)	三分二四秒六八	二位
4	TRISTAN (大阪)	三分二六秒四三	三位
5	魁偉 (佐賀)	三分三三秒九二	六位
6	天風 (岡山)	三分三三秒九三	五位

蓋世は部門七位

一般舵手付フオア 決勝

1	暁 (滋賀)	三分二〇秒五二	六位
2	雷光 (佐賀)	三分一八秒七七	四位
3	芝蘭 (京都)	三分一八秒五五	三位
4	阿修羅 (熊本)	三分一二秒六四	一位
5	鵬翼 (長崎)	三分一八秒九八	五位
6	IXION (大阪)	三分一四秒〇六	二位

鵬翼は部門五位

長崎大学は総合成績六位

●全日本大学選手権(二〇〇〇m)

於戸田漕艇場

男子舵手付フォア 予選A組

- | | | | |
|---|----------|---------|----|
| 1 | 新潟大学 | 七分一五秒四五 | 四位 |
| 2 | 長崎大学医学部 | 七分一二秒二四 | 三位 |
| 3 | 福島県立医科大学 | 七分一七秒九九 | 五位 |
| 4 | 龍谷大学 | 六分五四秒六一 | 一位 |
| 5 | 立教大学 | 七分〇〇秒四三 | 二位 |
| 6 | 関西学院大学 | 七分三一秒三九 | 六位 |

男子舵手付フォア 敗復F組

- | | | | |
|---|---------|---------|----|
| 2 | 長崎大学医学部 | 七分〇四秒〇七 | 二位 |
| 3 | 東北大学 | 六分五一秒二四 | 一位 |
| 4 | 金沢大学 | 七分一一秒〇四 | 三位 |
| 5 | 関西学院大学 | 七分一二秒一九 | 四位 |
- 予選敗退

平成二十三年度COMX記

Aクルー記

九州学生レガッタ(鴨打)

オフシーズンが始まってから、「水を壊さずに漕ぐ」ことを目標に練習してきた。直前の練習までインハンドロウ・ノンフェザーでの練習が主。スタート練習など特になかった。ただ、クルーとしては長大が西医体で優勝したこともあり、Bクルーとの一騎打ちのような状態になるのでは、などと考えていた。

私自身はどうかというところ、昨年の秋にコックスに転向し、何も分からない状態で、コーチの澁谷さんの指示でいきなりAクルーに乗ることになった。初めてのコックスでの試合でも緊張していた。おまけに、トップコックスでしか練習したことがないので、スタンコックスでの試合。ラダーの切り方が探り探りといった具合だ。

試合

スタート練習をしなかったため、スタートはノンワークスタートとなる。おまけにレートは三三二。そのためか、熊本大学と熊本学園大学がスタートと同時に抜け出す形となる。本来なら、レートをもっと上げるなどして、喰ら

い付いて行くべきなのだろうが、当時の私にそのような判断が出来る訳もなく、そのままのレートで進むことに。熊本大学と熊本学園大学との差はほとんどひらくばかり。そんな状況に痺れを切らした粕谷さんに五〇〇mあたりでスパートを要求され、慌ててスパートのコールを入れ、一気に追い上げようとするも、レートをうまくあげられず、艇速をあげることが出来ない。結局そのまま差を縮めることもできず、おまけにはBクルーにも先にいかれ四位でゴール。

敗因は、コックスとして、私が全く機能しなかったことは言うまでもなく、「レートが低かったこと」と言えると思う。ロウヤーに聞いてみると、レートを上げきらないと言っていた。本来なら、試合中にレートを上げるなどというように、途中でレートを変える必要などなく、「試合は練習のごとく、練習は試合のごとく」というように、練習通り落ち着いて、大きく強く漕げば良いのだが、今回の場合は明らかに低すぎた。レートを上げきらなかった原因はおそらく、フィジカル面。高いレートに相応しいスピードでドライブするだけのパワーがまだなかったのだと、思われる。今回の試合を通して、ロウヤーはオフシーズンの課題を見つけるとともに、私自身もコックスの難しさを改めて感じた。

九山 (三瀧)

予選

スタートSR四〇ダッシュSR三六〇三八で出る。序盤バタバタとしてしまい、熊本、宮崎に出られてしまう。コンスタントに入り、レンジをキープしつつ艇を立て直し、宮崎に追いつき二位に。SRは三三〇三四ほど。五〇〇m手前、熊本と3/4〜1艇身差のところまでゴールを入れ、一本一本詰めていく。決勝を意識してか熊本は流し気味だったこともあり、七〇〇m付近で一位となり、そのまま二位熊本と七秒差をつけゴール。

コンスタントではそれなりに艇を安定させていくことが出来たので、決勝ではコンスタントSR三六〇オーバーを狙うことにする。

決勝

試合前の練習で予選より高めのSRでの漕ぎをするものの、あまり艇が安定せず、不安を残したままレースに臨むことになってしまった。

スタートダッシュは予選同様ややばたつき出遅れてしまい、熊本、佐賀について宮崎と三位争い。コンスタントに入ったところでSR三六〇三七程だったが、やはり事前の練習でもうまくいっていないものが本番で出するのは難しく、すぐにSR三三〇三四ほどに。SRは無理せず、一本一本で伸ばすことに集中する。五〇〇mで一位熊本と

一・五艇身、二位佐賀と一艇身ほどか。ここで差しに行くためにスパート。しかし思うように縮まらず、残り二〇〇mで熊本と逆に二艇身、佐賀と1/2艇身程。少なくとも佐賀は差さなければと、ここからラストまでゴールを入れまくり、佐賀と抜きつ抜かれつしながら最後はハナ差で二位。

九州朝日レガッタ (三瀧)

予選(再レース)

相変わらず遠賀はコンディションが悪い。それでも例年よりはましか、というやや荒れなコンディション。

スタートしてダッシュに入ってからどうもバウの動きがおかしいと思ったら、バウのシート付近の土台が壊れているというまさかのアクシデント。審判に申告して、なんとか再レースにしてもらう。ボロい借艇ではあったが、こんなこともあるもんだ。

改めてスタート。やや出遅れ、三位集団に。九山の時からこのクルーはスタートはあまり得意ではないので、コンスタントで慌てず伸ばすことを意識する。五〇〇mで二位の九工大を捉え、佐賀とも一艇身内に詰めていたので、そのまま差しきろうとするも、ラフコンに詰めていたので、思うように艇を伸ばしきれない。ラストスパートで追い上げるも、一位佐賀と一秒差の二位でゴール。

決勝

予選のタイムからみて恐らく佐賀との勝負だろうか。予選の時のように、ラフコンでも固くならずにいければ十分に勝てる。そんなことを考えながらレースに臨む。と思っていたら、スタートから隣のレーンのうちのBクルーが一気に飛び出し独走する。普段子々川でほとんど負けていなかったので予想外。ちらりとみると高いSRで攻めているようだ。大してこちらはスタートでまたも出遅れ、序盤四位スタート。スタートまわりどうにかせないかなあと思いつながら、ともかくコンスタントで詰めていく。四〇〇m程で佐賀大、七〇〇m程で山口大と捉え二位に。ここで、前半オーバーペースだったBが落ちてくるだろうと思っていたら、思っていたより落ちてきていない。残り三〇〇mで二艇身弱か。今スタートかけてラストまでもつかと一瞬躊躇したら、逆にrowerからコールを促されてスパートをかける。残り一〇〇m。1/2艇身。間に合わないかと思つたが、最後の一ストロークでギリギリBを差してかろうじて一位を取る。

試合後rowerから、もつと信用して早めにスパートを掛けてくれ、それだけのトレーニングはしてきているんだからと言われる。自分のCOXとしての力不足に申し訳なくなつたが、この言葉でもっと早めに仕掛けていける、という自信のようなものを得られたように感じた。ともかく今季初優勝だ。

関西選手権(三瀧)

このクルー初めての二〇〇mレース。慣れない土地への遠征、また自艇参加が多い中でのボロイ借艇での参加ではあるが、今年の西医体と同じ会場でもあり、強行してでも出る意義は大きい。

予選

レース直前のアップ中に、三番が漕ぐたびにリガーの付け根の部分のボディが歪むことが判明。なんという借艇……。しようがないので不安を抱えたままレースに臨む。

スタートは、初めての二〇〇mということもあり恐る恐るになつてしまい、三艇に先にいかれてしまう。いつもと違う艇ということもありなかなか差をつめることができず、そのまま四位でゴール。

敗復

予選終了後に艇を変えてもらい、また普段との水質や艇重量の違いを考慮した上でリギング値を変えレースに臨む。

前日に比べて前半積極的に入ることができた。一〇〇〇mまで来て一位と1/2艇身程の二位。ここからさらに詰めていきかけたが、コンスタントの伸びは1位の大阪市立大の方が大きく、また一七〇〇mあたりで崩してしまい

結局二位でゴール。なんとか準決勝へ進んだ。

準決勝

敗復までではコンスタントに入ってからからのSRが徐々に落ちてしまい目標SR三六をキープできなかったため、準決勝ではキープし続けることを一つの目標にする。

しかし、スタートから周りの艇に徐々に置いていかれ、なんとか五位の艇と一艇身程についていくも、そのまま六位でゴール。

SRも一度崩して落ちてしまつてから上げ直すことはできなかつた。これを落とさないようなタイミングのいいゴールを掛けられていない僕の実力不足。また、長距離の移動、サポート無しで五人だけで慣れない土地での試合に臨んでいたことで、心身共に疲れがピークに達していたことは否めない。とはいえ、二〇〇〇mレースを経験できたこと、西医体前に同じ会場でレースができたことは大きかつた。

県漕（鴨打）

もう一度COXを交換し再びAクルーに。今までAクルーは漕ぎの滑らかさを意識し、無駄なブレーキをなくす方向で、Bクルーはひたすらまっすぐ強く、長く、という方向で速くなつてきた。そんな長所・短所が真逆の関係にあつた二つのクルーがクルーチェンジして、お互いのいい

ところを吸収することでレベルアップをはかることになつた。

予選

他の艇が新人艇であつたので、ほぼタイムアタック状態。「レート三八以上で。」という澁谷さんの指示があつたので、それを守ることに。レートは守ることが出来たが、レートを気にするあまり、キャッチレンジが短くなり、一本一本の伸びが出せなかつた。また、試合前のアツプでもたついていたことを澁谷さんに注意された。そのせいで、十分なパフォーマンスが出来なかつたのかもしれない。試合前に、十分にロウヤーの体の力を抜いてやることも、コックスの大事な仕事であると感じた。

決勝

予選での反省を活かし、レンジを大きく意識する。三五〇mあたりまでは、RC長崎とほぼ並んでいけたが、徐々にRC長崎が前に出始める。五〇〇m地点でRC長崎に半艇身差をつけられていたため、すぐさまスタートのコールをいれる。いったん、差を詰めることが出来、〇・三艇身差まで持つていくことができたが、六五〇mあたりから再びRC長崎に差をつけられる。ひたすら、二枚上げ等、コールをかけるも、差を縮めることが出来ず、二艇身ほど差を広げられ、二位でゴール。RC長崎はうちのクルーを見

つつ、速度を上げて、逃げていたような感じがした。子供扱われた、といつても過言ではないかもしれない。そこまで力の差を感じた。だが、現時点での自分たちの力は出し切れた。

西医体（鴨打）

西医体直前の練習で、自分たちのスピードに自信を持ち始める。パワー的に他のクルーの劣るため、スタートは出られるかもしれない。しかし、自分たちの長所は軽さとテンプ。軽く、ポンポン漕ぐことで、三〇〇mあたりで確実に差すことができる、というイメージを持ち始める。スピードを落とさずに、漕ぎ続けることが出来ることも、長所といえるのかもしれない。ただ、ややスタートに不安が残る。

予選

ロウヤーに緊張は感じられない。組には、一番艇は浜松医科大学の湍だけであつたので、落ち着いて漕げたのかもしれない。スタートを無難にこなすも、四〇〇m地点まで熊本大学の二番艇と浜松医科大学と並んでいた。いや、正確には〇・二艇身ほど浜松医科大学が前に出ていた。五〇〇m地点で、すかさずスパートを入れ、一気に艇速を上げ、浜松医科大学に並び、抜き去ることに成功。そのま

ま、一本一本、フィニッシュを伸ばし、余裕を持って、一位でゴール。もうちよつと最初楽に出れるかと思つたが、他の艇にしぶとく付いて来られてしまった。少々、落ち着きすぎたのかもしれない。もうちよつと攻めの姿勢が必要だと感じた。

準決勝

滋賀医科大学の暁、京都大学の芝蘭、おまけにBクルーとのレースとなる。試合前のアップでかなりいい漕ぎが出来て、良い状態で試合に臨めた。昨日の予選の反省を生かし、スタートから攻めていくことに。若干の不安があるスタートであつたが、このレースではとても良いスタートが出来、スタートで一位に立つことが出来た。とはいえ、相手は強敵。五〇〇m地点まで一位とはいえ、ほぼ一線。ここは早めにスパートをかけて逃げ切ろう、ということ

決勝

で、五〇〇mを通過するとすぐさまスパートをかけ、一気に逃げにかかり、差を広げる。他の艇は七五〇m辺りからのスパートで一気に猛追してくる。それを必死に逃げる形となる。しきりに二枚上げでレートあげるも、早くスパートをかけたため、九〇〇m辺りで艇速が落ち始める。京都大学の追い上げがすく、差されそうになるも、無事一位でゴール。早め早めのスパートが、勝ちに繋がった。

る。二艇とも予選と準決勝で良いタイムを出していたのでマークしていた。レーンもたまたま熊本大学と大阪大学とは隣同士であった。予選、準決勝と一位通過していたため、この二艇に勝てば、優勝だと思っていた。いや、自分たちの力を発揮すれば、絶対に余裕で優勝だと思っていた。

しかし、試合前のアップ。緊張からだろうか、本来の漕ぎが出来ない。ビルドアップで、上体の力を抜こうとするも、うまくリラククスすることが出来ない。スタート練習もどうもぎこちない感じた。そうこうしているうちに、試合を迎える。理想は準決勝のような展開だった。スタートで一気に飛び出し、早め早めの仕掛けで、逃げ切る。そんなイメトレを昨晚から幾度となく繰り返ししてきた。が、現実はそのなにごくなかった。スタートとともに、両サイドの熊本大学と大阪大学が一気に飛び出す。正直、他の大学とは比べ物にならないほどの、スピードであった。ロウヤーにひたすら、「強く」と言い続けるが、二艇との差を詰めることが出来なかった。三〇〇mもまだ漕いでない時点で、すでに一艇身ほどの差がついていた。これはやばいと、三五〇mあたりですぐさまスパートのコールをかけ、一気にスピードを上げるも、二艇は全く艇速を落とす気配がない。七〇〇mあたりで大阪大学が艇速を落とし始めるも、その時点で二艇身はつけられていた。結局、その差を最後まで縮めることが出来ず、ゴール。三位でゴール

かと、思ったが僅差で、京都大学と佐賀大学に敗れることに。

元々、うちのクルーの長所は軽さとテンポである。一方で、短所はフィジカル面。試合前の想定として、スタートはパワーで、他のクルーに劣るかもしれないが、持ち前の軽さとテンポですぐさま差すことができる、というものだった。ただ、長所の軽さにも弱点に繋がる要素があった。このことは子々川での練習でも明らかになっていたことだが、あまりに軽いために、波の影響を受けやすく、波をくらくらうと、本来の艇速を出すことができないのだ。今回の決勝もおそらくそのパターンに当てはまる。スタートと同時に飛び出した熊本大学と大阪大学の漕ぎで生まれた波をくらくらってしまったことで、終始、自分たちの本来のスピードを出し切れずに、差を詰めることが出来なかった。二つの大学にはしてやられた感じであるが、大元の敗因は、フィジカル面で劣るために、スタートで速い艇速を出すことが出来なかったことにあるのだから、致し方ない。

インカレ（鴨打）

航行ルール。戸田にはそのようなものが存在する。もちろん、子々川にも航行ルールはあるが、多くても四艇ほどしか艇が出ていないので、航行ルールなんてあってもないようなもの。しかし、戸田ではそうはいかない。練習している艇は軽く百艇はあるのではないか、と思うほどの混雑

状況。初めての戸田での乗艇では、あまりの艇の多さに困惑し、どこを走らせればいいのか、さっぱり分からなくなってしまう。正直、乗艇中に泣いてしまいそうになるほど、混乱してしまった。その混乱のせい、戸田に来てから艇の動きが感じられず、ラダリングがいつものようにいかなかった。的確なコールもかけることが出来なくなつた。もちろん、調子を崩したのは、私だけでなくロウヤーもだ。子々川で出来ていた漕ぎが全然出来なくなつてしまつていた。それから、調子を取り戻すのに、四日ほどかかつただろうか。五日目あたりからは、子々川で出来ていたのと同じ艇速を出すことが出来た。その後、東京経済大学のフォアに泥棒並べをして自信をつける。また、元日本代表の方に、オーストラリア代表の漕ぎに似ている、と言つていただき、ビデオを見て練習することに。

予選

早々とステッキボードにつけ、スタートを待つ。かなり緊張していたので、もう一度冷静になるように、言い聞かせる。しかし、そこで思わぬ事態が。審判から、デットウエイトを見せるよう要求される。一体何のことなのかさっぱり分からなかつた。コックス計量では、五五kgちょうどであつた。確かに、五四・九kgをチラチラ見る感じの五五kgであつたが、審判には五五kgと測定してもらつた。その証拠に〇・一kgの重りなどもらつていない。それなのに、

審判は、デットウエイトを見せるように言ってくる。一体何なのだろうか。ただでさえ、緊張しているのに、そんなのことを言われては、落ち着こうにも落ち着けない。結局、試合後本部に来ることと言われ、不安定な精神状態で試合はスタートする。

そんないざこざがあつたためもあつて、私も含め、ロウヤーも本来の力を出し切れなかつた。コンスタントレート三六で最後まで漕ぎ続けるはずだったが、一五〇〇m地点あたりからレートが三四に落ち、最後まで上げることが出来ずに、先を行く龍谷大学と立教大学との差を詰めることができなかった。

試合後、本部に行くと、審判のお偉いさんが出てきて、「今回は本当にすまなかつた。次の試合頑張つて下さい。」とだけ言つて、握手してきた。なんでもコックス計量の際に、審判間での伝達がうまくいかず、五四・九kgと記録してしまつたとのこと。一体何を考えているのだろうか。私たちの一年を無駄にする気か、と思い、いらだちと悔しさで涙が溢れてきた。だが、終わったことをいつまでも引きずつても仕方がない。すぐさま、敗者復活戦へと気持ちを切り替える。

敗者復活戦

予選後、整調のゆうしが、澁谷さんの勧めで、日本大学のコーチの大林さんに指導をうけることに。教わつた

ことは、そのままクルーに持ち帰り、共有し、漕ぎを変更した。フィニッシュ後、少し止まる漕ぎから、ハンズアウェイを速くする漕ぎにだ。何だか、両者は大きく異なる気もするが、やっていること、そしてその目的は、同じ方向へとベクトルが向いているそう。私には、よくわからない領域である。そのため、漕ぎ方の切り替えはすんなりできた。乗っている印象は、以前にも増してワンストロークで加速している時間が増えた感じだった。敗者復活戦を前に、もう一段階、スピードを上げることが出来た。

試合では、予選で大体の流れを把握出来たために、かなり落ちつけていた。時間に余裕をもったアップで、試合前も早めにスタート地点へ着け、身体を休めることが出来た。そんな中、試合の定刻まであとほんの五分前というときに、突如、天候が荒れ始める。ちよつと雨が降り始めた、というレベルではない。物凄い風。バケツをひっくり返したかごとく降る雨。荒れ狂う水面。悪コンディションはうちのクルーにはプラスに働くか、とその状況を喜んだが、すぐさま審判に天候が回復するまでの試合の延期を告げられる。試合開始は二時間二〇分後。雨を非難している際、応援に来てくれている部員、それに艇庫に宿泊させて下さっている東京外国語大学の方々にサポートしていたとき、大変助かった。本当に感謝している。

長い間待たされた試合。今までになく良いスタートをきる。東北大学とほぼ互角といったところか。だが、すぐ

さま東北大学が前へと出始める。しかし、ここで焦ったりはしない。前に出られることは百も承知。相手は必ずばててくる。自分たちの漕ぎ、軽さとテンポで漕ぎ続けられ、必ずさせるはず。レースは二〇〇mなのだから。本当の勝負は一〇〇mから。そうひたすら、ロウヤーに言い続け、落ち着かせ、リラックサさせる。上体の力を抜き、自分たちの力を最大限に発揮し、一本一本進めた。このスピードで大丈夫。そう思えるスピードでひたすら東北大学についていく。九〇〇mあたりに来た時には、四艇身位の差があつただろうか。一〇〇〇mを通過するとともに、ロウヤーに、ここからが勝負、と言い続ける。ここでやや艇速の落ちかける雰囲気を感じたために、すぐさま二枚上げでレート三八に。さらにスピードをあげ、東北大学との差を縮めるも、なかなか差が縮まらない。あれやこれやで、何が何でも絶対に抜いてやろうとするも、その後、結局最後までその差を縮めることは出来なかつた。二位でのゴールだ。負けてしまったが、自分たちの漕ぎ、力は完全に発揮できた。だが、絶対にはてるはずと思われた東北大学が、最後までそんなに艇速を落とすことなく漕ぎ続けたのだ。うちのクルー以上の力で。試合後のミーティングで、敗因は、技術云々の話というよりも、フィジカル面、パワーのなさであるということに。今までは、パワーの、他のチームへの劣りは、軽さとテンポでカバーできるといふ考えのもとにやってきたが、やはり、あまりのパワーの差はひつ

くり返すことが出来なかつた。この敗因は来年度の課題へと繋がる。真つ先にやることはフィジカル面の強化。これを克服し、来年、長崎大学医学部が、今年より上に、いや表彰台に上れるよう日々精進する限りだ。

Bクルー記

九山（鴨打）

毎年三月にある九山であるが、地震の影響でゴールデンウィークに延期となる。突然の延期でなんだか拍子抜けしてしまつた感じであつたが、今考えると、より完成度の高い状態で、他大学と競えるということは反つてよかつたのかも知れない。

三月は、肋骨の骨折や腱鞘炎、肩の痛み等、怪我人が余りに多く、Bクルーは怪我してない人でどうにかクルーを組んで練習をするといった形になつていたが、四月になり、待つてました、と言わんばかりに、みんながロウヤーとして復帰し始めた。九山に出るBクルーがほぼ固定したのは九山二週間前あたりだつたらうか。そんなクルーが、まず澁谷さんに指導されたことは、「まつすぐ引く」ように出来るようになりなさい、ということだつた。スタンコックスであつたので、コックスの私にも、みんながあらゆる方向に向かつて漕いでいるのが見て取れた。九山直前の練習は、スタート練習をバリバリするとかいうように、九山に

向け、何か特別なことをする訳ではなく、インハンドロウや一〇cmスライド・ハーフスライド・フルスライドで、ただただひたすらまつすぐ真後ろに引いてくれるように、そしてより長く水を掴めるように修正していくことだつた。そのため、クルーには何となく「九山絶対勝つぞっ！」というよりは「九山があるから出ますか。」みたいな温い雰囲気があつたことは否めない。

予選

スタート、ダッシュ、ロウイング、コンスタント。あまりスタート練習はしなかつたが、五本、一〇本、一〇本とスタートを終えたときには他の艇より前に出ていた。そして四〇〇mに来た時には他の艇を突き放して、一位を独走していた。正直、こんなに自分たちが前に出れるとは思つていなかつたので、若干戸惑いつつも、ちよつと喜びを隠せない。整調の有賀君も五〇〇mあたりで満面の笑みで「落ち着いていこう」とクルーに声をかけ、さらに落ち着いて大きく、強く漕いでいたのは、私の脳裏に焼き付いている。レート三四くらいの予定であつたが終始レート三六くらいで漕ぎ続け、二枚上げにもすぐさま反応するレート管理も有賀君はすごいと思つた。この予選で一位を独走したことで、「俺たち意外と速いんじゃない？」と思うようになり、それなりに高いモチベーションで練習して来れたのは事実だ。予選が終わり、クルー間に優勝という文字が浮かび始

める。

決勝

斑蛇口湖の一レーンは流れが強い。そのため、ステッキボードに付けた後も、ひたすらチャボにより、方向を正していたが、アテンション・ゴアの合図の間に、艇が大きく曲がってしまう。おまけにミスオールにより、大きくレーンを出してしまうことに。すかさずラダーを全切りして方向を正すも、ロウヤーの精神状態までは落ち着かせることが出来なかった。激しく曲がったことで、ロウヤーは焦り、そしてストロークコーチの故障により、整調が予選のときのようにレートを上げられない。五〇〇m地点を過ぎたあたりで熊大が約〇・八艇身でいた。調子を取り戻し始めたのは六〇〇mを過ぎたあたりで、それからじわじわと追いつけるも、時すでに遅し。予選で一〇秒ほどの差をつけて勝ったクルーに、落ち着いて漕ぐことが出来なかったために負けてしまった。どんな時も、気を抜かず、落ち着いて漕ぐことが必要だと感じた。

九州朝日レガッタ（鴨打）

丸山から二週間後。とりあえず、クルー内での九朝までの目標は、フィニッシュ周りをより長く、より真つ直ぐ。一本一本確実に、丁寧な練習を繰り返した。まずはレート二八、それが出来たらレート三二、その次はレート三六

と、ひたすらBUILDUPを繰り返した。

予選

毎年のことだが、遠賀川はひどく荒れていた。そのために、私が、艇を真つ直ぐ進められるかを仕切りに気にしていたことで、ロウヤーに緊張が移ってしまう。試合前のアップで、いつものように、チャボりがうまく出来ない。緊張のためだ。これはまずいと、いつも通り、ひたすらBUILDUPを繰り返し、ロウヤーの力みをとっていく。試合までには何とか、ちよつとは力みを取り除けた。試合前、澁谷さんに「絶対に一位になるから、安心して行ってこい」と言われるも、どうも山口大学の人が強そうに見えるってしまう。試合が始まり、スタートはどのクルーも横一線。うちのクルーがレートが低かったせいも、やや、他の艇に先に出られている状態だった。かなり焦ったが、何のことはない、三〇〇mのあたりには他の艇に並び、その後は一本一本、他の艇を突き放す形に、その後、終始、他の艇を寄せつかせず、一位でゴール。ちなみに、もちろんスパートはハイパーロウイング。ハイパーロウイングは半端ないと、この試合ぐらいから言われることに。

決勝

予選でやや出遅れたことから、決勝はスタートからぶっ飛ばそうと、「レート四三でスタートすれば、絶対一位に

なれるから」とかいう、根拠のないことを試合前言い続ける。「そのあとは、レート三六で漕いで行こう。」これまた、私が勝手に決めたことだ。とりあえず、この二つを実行することに。

作戦通り、スタートと同時に、レート四三で飛び出す。すると、三〇〇m地点では、一艇だけ他の艇より半艇身でることができた。明らかに他の艇とはスピードが違っていた。正直、決勝はAクルーもいるから、なんやかんやでスタートは横一線になる想像をしていたので、あまりの展開に若干戸惑う。作戦では、スタート後、レートを下げる予定だったが、レートを下げたら、スピードが落ちる感じがあつたので、急遽レート三八以上で突っ込むことに。これもまた私の勝手の判断だ。ひたすら二枚上げで、逃げ続ける。ただ逃げる。それだけだ。五〇〇m地点で、あまりの独走状態に、優勝を確信。だが、試合はそんなに甘くなかった。七〇〇m地点あたりで、左のレーンから、ギリギリと追いついてくる艇が。Aクルーだ。これはやばいと、二枚上げの嵐。上げに上げたレートをさらに上げようとするも、これ以上スピードは伸びない。終盤のフィニッシュの伸びはAクルーの方が上だった。一本一本差を縮められ、なんとか九九〇mまでは逃げ切ったが、ラストのワンストロークで交わされることに。結局、二位でゴール。途中で、優勝を確信しただけに、悔しさが大きかったが、長大の一、二フィニッシュ。このことに非常に意味があるように感じ、

うれしかった。

県漕 (三漕)

県漕では、鴨打と交代してBクルーのボックスをするところになる。このクルーは九朝でも二位になり、勢いのある一方、漕ぎに関してはAに比べると荒削りで不安定な印象。勢いはそのままに、艇をしっかりと滑らせ、安定させることを重点的に練習を行った。

予選

新人艇(普賢)と長崎RCとの三艇レースで、実質長崎RCとの一騎打ち。

レース前のアップでは硬さがとれ、艇も滑って悪くない状態。しかしスタートすると緊張からか、それまでよりやや動きが硬いか。それにしてもどうも様子がおかしいと思つたら、途中でCOXのマイクが入っていない…大失態。慌ててマイクをつなぎ直す。自力で勝る長崎RCに五〇〇m(このレーンはなぜかここまでで六〇〇m)で二艇身ほど。こちらの動きはまだ硬く、思うような伸びがない。それでもここから何度かスパートをかけ、一艇身差まで詰めるも、長崎RCに余力を残したまま先にゴールされてしまう。

決勝

スタートダッシュは長崎RCにやや遅れて、Aクルーと並んだ状態。コンスタントに入ると一本の伸びが長崎RCとAに劣り徐々に離される。そのまま長崎RCと二艇身、Aと一艇身差の三位でゴール。

西医体（三瀧）

予選

京都と熊本が一番艇という決勝常連と当たる。とにかくここを崩さなくてはいけない。

スタートで熊本が頭ひとつ出る。もともとこちらはスタートで飛び出して勝負するつもりだったが、ここ数日で少し調子を落としていた。それを抜きにしても熊本が速い。京都と二位争いをしながら追うが徐々に離される。またうちのコンスタントのレンジがいつもより短く、京都にもギリギリと離される。そのまま三位でゴール。敗復に回る。

敗復

熊本の二番艇がやや気になるが、順当に上がれる当たり。ともかくコンスタントの伸びを確認することを考えてレースに臨む。

スタートで熊本に出られる。このレースもスタートが自分たち本来のスタートが出せず少し崩しながらダッシュ、コンスタントといく。少しずつコンスタントが立ち直って

きたので、一艇身差程の熊本を差しにしようとしたところでアクシデント発生。四〇〇m地点で二番が大きく切れ込んだような衝撃が走る。急いで立て直そうとするが、「オイルが引つかかって取れない！」どうやらブイの緩んだワイヤーがうちのレーンにきていたようで、二番は切れ込んだのではなくオールをワイヤーに取られていた。走馬灯がよぎる。ようやく復帰できたときには最下位の艇からも一〇〇m近く離されていた。急いで艇を進め始める。もう間に合わないかと思つたが、バウ有賀の「落ち着いていこう」という冷静な声で、艇速をあげ、八〇〇m地点で三位まで上がった。上位二艇は三艇身程離れている。ここで、一位をいく熊本が何故かどんだん横のレーンに侵入、斜めに進み始める。結局三位でゴールしたが、熊本がレーン侵害で失格となり、なんとか準決勝に上がった。九死に一生とはまさにこのこと、これが最後のレースになるかと肝を冷やした。

準決勝

これまでの二レースであまりスタートがよくないこと、コンスタントの伸びがここに来てイマイチなこと、準決勝ではスタートでそれまで以上のハイレートで飛び込み、そのままハイレートで突っ切ることにする。

スタートはSR四五近くで突っ込む。多少強引にいった分崩しながらはなつたが、それでも最初はクルーと

Cクルー記

丸山（丹下）

今年の丸山は三月十一日の大震災の影響もあり、五月に延期された。

その影響もあつて菊田はシングルに専念し、竹田、田尻、朝野、佐藤でクルーを編成することになった。また、田尻は週に二回、朝練にコーチが来るときにモーターを運転しなければならず、田尻は今シーズンかなり苦労したと思う。レース自体は長崎大学二艇と熊本大学一艇での三艇レースとなった。

スタートから長崎大学の崎陽がロケットスタートを決めて飛び出していった。スタート一秒で手が届かないところに行つてしまわれた。さようなら。

熊本大学はずつと一艇身ほど僕らより前を出て、こちらを見ながらコントロールしている気がする。しかし前に出ているという事は、同じスピードで動いていれば抜かされることはないわけで、そのままじりじり離されて、ずるずるゴール。三着で予選敗退。

九朝（丹下）

朝からあまりコンディションが良くなく、中止ギリギリかとおもいきや二時間遅れでの開始。さらにレース直前に艇の故障にみまわれ、舵を交換してもらつた。

ほぼ並んだ状態で一位争い。ここからSR三八以上をキープしていったが、Aクルーの前に出られ、滋賀と京都と二位争い。五〇〇mを過ぎたところで京都にも先に出られ、滋賀にも徐々に出られ始める。なんとかハナ差で滋賀についていたが、スパートを掛けた七〇〇m過ぎで崩してしまい、滋賀を抜ききれずに四位でゴール。順位決定戦に回ることになった。

作戦通りハイレートで試合を進めることができたが、コンスタントの短さを改善できないままだったのが、中盤で前に出られる原因となった。あと少しのところでは決勝を逃した。

順位決定戦

スタートダッシュで浜松に出られる。今大会通じて、得意のスタートで飛び抜けることは結局できなかった。しかし、焦らずに三〇〇m、五〇〇mとゴールを入れて伸ばしながら差を詰めていき、七〇〇m手前で浜松を差して一位に。このまま一位をキープし、最後はスパートで多少崩しながらも逃げ切り一位でゴール。

目指していた決勝ではなかったものの、このクルー最後のレースを一位で締めくくることができたのは、素直に嬉しくて、クルー全員で喜びを分かち

いざレースと思われたが、他の艇もバキバキと壊れだす。結局他にも二艇が故障し、水上で一時間近く待たされた。さらにスタートでのフライングなどもあり、四回も再スタートしたりと、かなり荒れたレースとなった。

結果としてはスタートから新菱Aに半艇身ほどリードされ、食らいついていくも、スピードを落とさないのに精いっぱい、ずるずるとゴールまで持っていかれた感があり、二位だった。決勝は一位のみ上がれるため、準決勝敗退となった。しかし、一年生は楽しそうにしていたので（しよーじはやや消耗してたか？）今後の展望はなかなか明るそう。

梶漕（丹下）

西原聖仁が体調不良のために、松波さんに代わりに乗っていた。

新也は初めての一〇〇〇mだが、周りが五年生と六年生と二〇歳児（竹田）で少し窮屈そうだ。

レースは長崎RC（国体クルー）と蓋世と同じ組。国体を三年後に控えて少しリハーサルも兼ねているようだ。二〇歳児（竹田）の選手紹介欄の主なタイトルに学年成績最下位と書いたが、ふざけすぎでアナウンスしてもらえなかった。

レース自体は上位クルーについていけなかったが、一年生がレースをこなせた事が好印象だった。

西医体（丹下）

予選

水面は静かでコンディションは良好。直前の練習では少しスタートの調子がよさそう。

しかし、本番では硬さが出てしまい、やや前に出られる。五〇〇くらいからコースを見失って三コースくらいまでいた。四年生とは考えられないレベルの低いコックスである。

めちやくちやに蛇行しながらなんとか京都大学の次に付けて二位。

せつかく漕ぐ事に集中している漕手にいつも心配をかける。させて申し訳ない。

準決勝

とりあえず、隣のレーンの京都大学に勝てば問題なく決勝に行けると考えた。

また、一レーンは雄図がいるため、除外になると巻き込む形になってしまったため、昨日の悪夢が頭をよぎる。しかしスタートから思いつきりレーンの外に出してしまう。

四〇〇時点では浜松と熊本が一步ぬきんでている。あとは四艇団子だが普賢は半艇身遅れといったところ。その後も八〇〇付近までグニャグニャしながら進んでいき、九〇〇地点で京都大学と並ぶ。しかし、自分の引き出しが少なく、強くこぐことだけしか意識できなかったために艇速に

つながらず、一レーンの雄図に差されてしまう。雄図C O Xの上原君は「並んでいるから三本強く合わせよう」と一気にまくつたらしい。

明らかにC O Xの差で明暗の別れた試合だった。

反省

一年生よりC O X業が下手だった。センスがなく、努力も足りなかった。

四年目の集大成には程遠い内容であった。

Dクルー記

九朝（陣野）

陣野、佐藤、牟田、水野、朝野

予選

スタートの時点でバウサイに艇が向き、やや強引にラダーを入れて修正。その時点で新日鉄八幡さんが一つ抜きん出たのが確認できた。普賢と隣の宮崎大が五〇mほど並走した。

一〇〇m過ぎ、宮崎大より半艇身ほど出る。その時点で新日鉄八幡は独走状態、その後普賢、宮崎大と続く。

三〇〇m過ぎあたり、二番がシートを外してリズムが乱れ、バウがそれに対してシャウト。二番は動揺してさらに崩れるかと思われたが、ミドルの一年生二人は必死に喰ら

いついてきた。

残り一〇〇mあたりで宮崎大の追い上げのようなものがあつたが、やはりナツクルでの差は簡単には縮まらず、二位でゴール。明日は準決勝。

準決勝

朝からコンディションが悪く、予定より二時間程遅れてスタート。

さすがに準決勝とあり、スタート直後に他の三杯に出られる。ナツクルで差をあけられるとそれを縮めるのは難しいが、佐藤には普段のペースで大きく漕ぐことを意識させ、後ろはそれについていくことだけを意識させた。

ところが一五〇mあたりで三番牟田が切れ込んでハラキリ。サムライとしての責任をとったつもりであろうが、時期が早過ぎた。あつという間に他のクルーの姿が遠のいていく。さらに悪いことに、牟田はハラキリの際にオールを手放してしまった。このあたり、乗艇二回という経験の浅さが出てしまった感がある。体勢を整えるまでに時間をロスしてしまい、クルーに焦りが生まれる。

リスタートしてしばらく進んだ二〇〇mあたり、今度は二番水野が牟田に倣ってハラキリ。オールも手放してしまった。このあたり、経験の浅さが。実はこのとき、水野はシートを外していて、すぐに復旧を試みたがうまくシートがはまらず、やむなく腕漕ぎを指示した。しかし水野の

尻のサイズとナツクル艇のサイズが噛み合わず、懸命に漕ぐにもかかわらずリズムに完全についていけないようになってしまった。

水野に意思確認したところ、「コノ先、漕グ能ハズ」とのこと、エッジペアでゴールを目指すことにした。この頃他のクルーはゴールし終え、ギャラリーの好奇の視線がこのクルーに集められた。しかしエッジペアの漕ぎは力強く、ビデオカメラが追いつかない程にスピードをあげて無事ゴールした。

結果だけ見れば惨敗だが、一年生は同じレースで二人が同じ失敗をし、効率的な失敗の仕方であった。また、去年までは華奢なイメージを持たれていたエッジペアの二人が、確実に力強くなっていることが分かった。これらのことを考慮すると、今後が非常に楽しみなクルーであるといえる。これが、コックスとして今回持った率直な感想である。

県漕（陣野）

C・・陣野、S・・佐藤、3・・牟田、2・・水野、B・・朝野

コンディションは良好。

スタート直後に鵬翼が抜け、雄図との一騎打ち状態となる。しばらく半艇身ほど出られていたが、五〇〇m過ぎあたりから雄図のペースが落ち始めて崎陽が前に出る。その後淡々と漕ぎ続け、ラスト一五〇mあたりで二枚上げを

入れてフィニッシュ。

初めての二〇〇〇mレースであったが、メンバーはあまり疲労を感じなかったと言っていたことから、残り二ヶ月は毎モーションで仮想レースを行うことになった。（これを書いて六月十九日現在、実施率は事情もあって五分なので、これからさらに入れていきたい）

西医体（陣野）

新人男子予選

蹴り出し後にスコールに見舞われ、水抜きに追われる事態に。この状況を予想せずに備えを怠ったコックスは猛省すべきである。このことが、これからレースにのぞむ漕手の心理に影響を与えなかったとは言いい切れない。

レーススタート時は、雨は弱まり流れは軽い逆流。スタートは大きな左右差なく真つすぐ出ることができたが、四レーンのASTRIA（大阪）がひとつ抜き出た。二位を走る、三レーンの葉隠（佐賀）を半艇身後ろから追う展開になる。コックスが自艇の距離を見失い、二五〇m、五〇〇mでのコールが入れられなくなったが、半分を過ぎたあたりで佐賀を捉えたため、三本コールを入れて抜きにかかった。しかし艇速伸びず、逆に佐賀に離される展開となった。そこからしばらく佐賀との距離が縮んだり離れたり、という状態を繰り返したが、残り二〇〇mを切って徐々に差が広がり、約二秒差で三着に終わった。

このレースでは、漕手の緊張がこちらに伝わってくるほどのもので、体が硬くなっていたように思う。そのことが、コールを入れたところで艇速が伸びず、逆に離されてしまう結果につながったのだと思う。緊張は当然するものだが、一年生に自分の緊張をコントロールすることを求めることは難しい。コックスとしてはそれをうまくサポートする必要がある。

新人敗者復活

昨日とは違って変わって朝から日差しが照りつけ気温も上がった。この大会二本目のレースということで、漕手の表情も昨日に比べると和らいだ。

スタートで三レーンの神鷹（佐賀）にやや出られるが、この展開は想定内であり、クルーも普段から練習してきたリズムでコンスタントレートに入った。五〇〇mあたりで佐賀に追いつき、そのままサクリ追い越した。昨日、必要以上に肩に力が入ってしまい勝負所で勝負しきれなかった反省から、クルーには落ち着いて漕ぐことを意識させるよう声をかけ続けた。三番のシャウトも入り、クルーのボルトージも最高潮に達した。ように思えたが、リードを保つことができずに八〇〇mあたりで再び佐賀に出られてしまった。二枚上げ、さらに上げ（なんとコールしたかは覚えていない）を入れたが二着に終わる。タイム順による最後の枠に望みがかかったが、その後のレースの結果により

敗退が決まった。

漕手のみんな、本当にお疲れ様。引退するメンバーも残るメンバーも、今回の大会で感じたことを栄養にしてそれぞれ次のステップでもがんばり通してくれればと思う。

Eクルー記

県漕（水野）

C…水野、S…新垣、3…小島、2…上原、B…田尻

クルーを組んで二回目の試合。そして僕はCOXとして初めての試合。まだクルーを組んでから日が浅く、漕いだ回数も数えるほどという状況であったが、ぎりぎりまでハイレートはやらせなかった。前日から少しハイレートとスタートをやってみて、試合当日は鵬翼、崎陽といざレース。うちの艇は直前のスタ練がいい感じで決まって、滑り出しはまずまず。鵬翼はさらにその先に一艇飛び出していき、序盤二位スタートとなった。三位の崎陽に二〇〇m付近で約一艇身ほどリードする。ここらで落ち着いて大きく漕いでいこうとするも、コンスタントにスムーズに入れない。バタバタが治まらない。横の崎陽をみるとレートは落ち着いて大きく漕いでおり、艇速ものつてきている。ここでCOXが焦ってしまった。三〇〇m付近で相手の引き離しと自分らの漕ぎを落ち着かせるため、「大きく強く五本」のコールを入れる。が、痛恨のmiss row。艇が曲がり、立

て直しに夢中になっている間に崎陽と並んだ。ここでもう一度コールを入れるも艇は伸びず。崎陽に刺され、逆に一艇身以上リードされてしまった。残り三〇〇m、rowerの体力も尽き、さらにmissを重ね、落ち着くことなく三位でゴール。結果は残念であったが、問題点を話し合い、これから五人で練習をみっちりしていくことを確認するという収穫を得ることができた。

西医体（上原）

初のコックスとしての試合で、レーンのあるところでコックスをやるのも初めてでレース前にレーンのあるところで練習する予定だったのにレーンの張られる時間の都合でそれもできず、ものすごく緊張したのを覚えています。

最初のレースはスタートで周りの艇に一艇身差以上つけられ、波も強く隣のレーンに入らないので精いっぱい、ロウヤーに申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

敗者復活戦もスタートでは出遅れたものの、落ち着いてコンスタントのあたりではもう追いつきかけていたのでテーションが上がりコールも少し多すぎたかなと思いましたが、初のトップゴールは気持ちよかったです。

準決勝はスタートから五〇〇m位までほぼびりでしたが、ラダーの使い方がつかめてきたのと周りの艇に疲れが見えてきたので勝負どころと判断し、五本強く入れたら雄図だけが加速したように感じたので少し早めにスパート

を入れ、最後の一〇〇mで二艇抜いてぎりぎり二位で決勝進出を決めました。敗復でコールが多かったかなと思っていたのに、このときは最後でみんなの疲れが出ないようテーションを高めで維持するためにも叫びまくっていたのだが、途中から声がかすれていたらしい。申し訳ない気持ちも大きかったが、決勝進出の喜びの方が大きかった。

決勝は、前日の疲れのせいか艇速が思うように伸びず、五本強く入れてもスパートかけても全く差を詰められず、どうしようもない無力感が身に染みしました。

全体としては、長崎の新人艇の中では一番の成績を残せたのがほんとに嬉しかったです。私の代わりに漕いでくださった水野さん、拙いラダーワークで揺れる艇を安定させてくださったパウの田尻さん、同じ一年の新垣、児嶋、そして周りから支えてくださったポート部の別のクルーの皆さん、本当にありがとうございました。

部員雑感

雑感

一年 新垣 慶人

こんなに、体的にきつい夏は高校以来でした。いろんなものを失い、得ました。

これからのオフシーズンに非常に恐怖を感じます。ボート部に入ったことを糧にする、実りあるスマートなキャンパスライフを送りたいと願っています。

雑感

一年 上原 裕規

一年のくせにコックスをやらせていただいております、上原です。

腰を壊したり喘息が再発したりで迷惑ばかりかけていますが、それでもボート部の一員として認めてくださっている先輩方や同輩に感謝し、これからも私なりに頑張っていると思います。

でも付きペアはもう嫌です。沈したときにコックス席か

ら抜け出せなくて完全にトラウマです。。。

雑感

一年 児嶋 知仁

はじめまして一年の児嶋です。

今シーズンを終えてまず思ったのは練習が激しいということでした。

しかも、これからもっと激化するようです。しかし素晴らしい先輩方を見習って頑張っていきたいです。

雑感

一年 西原 新也

真つ先にボート部へ入ったものの、ここまで練習がキツく、時間の取られるスポーツだとは思わなかった。

だが先輩方はとても面白い。仲間達とわいわい汗を流すのも楽しい。

ギリギリです。頑張ります。

雑感

一年 水野 弘士

大会も当分なく明確な目標もはつきりしていないオフシーズンだが、目の前の課題を一つずつこなし、大会で勝てるよう貢献していきたい。

雑感

一年 牟田 龍史

牟田です。
最近、三途の川を漕いでいる感じがします。

雑感

二年 有賀 建治

先輩からモーニングコールがかかってくる夢でよくうなされます。どなたか名医の方、治してください。

ボートとは

二年 池田 英史

みなさんはボートとはどんなものだとお考えでしょうか。熱い、セクシー、楽しい、つらい、つらい、つらい……いろいろな考え方がありと思います。

惜しくもインカレで敗退し、僕は準決勝、決勝をゴール地点でひとり観ていました。そしてあることを知りました。ボートのすべてはあのゴール直後に見えるのではないのでしょうか。ゴールまで全てを出し切り漕ぎ切り、その直後レースであるがゆえに残酷な現実をつきつけられる。歓喜の声をあげる者、慟哭する者、全てを出し切り声にならぬ声をあげる者、いろいろな人がいます。今までのボート人生がすべて詰まった一瞬なのだと思います。そしてあの一瞬がボート競技そのものなのではないかと思っています。

あの一瞬を存分に味わうために、来シーズンもがんばっていききたいと思っています。

雑感

二年 川口 雄史

九月は唯一、ボートを一度も漕がない月かもしれません。

はじめてちゃんとした大学生活を送った気分がしました。十月になりました。ほぼ毎日ボートを漕いでいます。最近おかしなことがおきてます。前の僕には考えられないことですが、正直少し部活が楽しいです。休み明けだからか、エルゴのメニューがないからか、しぶけんに上手くのせられてるからか：鬼のような筋トレもこなし、毎朝遅刻せず子々川に向かいます。いつまでこの気持ちがつづくかわかりませんが、楽しいと感じられる限り頑張っていきたいと思います。それと、だれか僕と一緒にダブルに乗りませんか？一緒に日本一になりましょう。自分だけ妙にやる気があつて、若干浮いてます、どうしましょう。

三年生はとんだチンカスやろうばかりで、二年生もみんなちんぽやろうなので、艇も部活も僕が引っ張っていきます。すみません調子に乗りましたごめんなさい。

雑感

二年 佐藤 晋平

がんばります。

雑感

二年 二宮 直樹

長大祭の店長としてがんばります。

雑感

二年 福田 龍一

今年もまたシーズンが終了しました。

去年は初心者新人として西医体に望み、敗退を経験し悔しい思いをしました。

今年こそは、と思い意気込んでオフシーズンから練習に励み、最終的には対抗クルーに選ばれるまで成長できましたが、後一步というところで西医体は苦渋を舐め、後に行われたインカレでは予選敗退という非常に不甲斐ない結果に終わってしまいました。

しかし、悔しい思いをするにも、一年生の右も左もわからない時に比べると、大分感覚が違うとも感じていました。まず、対抗クルーとして部活の看板を背負って戦う以上絶対に勝ちたいと言う気持ちが大きくなりそれは励みにもなりましたが、反面プレッシャーとして自分の上にのしかかっていました。

精神的にもつらい日々が続いていましたが、それでもシーズンが終了するまで元気にやって行けたのは同じクルーのメンバーの川口、池田、粕谷先輩、鴨打先輩の存在が大きかったです。

本当にありがとうございます。

雑感

三年 鴨打 周

澁谷さんがよくおっしゃっていました。

僕もインカレに出て思いました。

「戸田は楽しいで〜」

来年こそは、インカレでうちの部活が良い結果を残せることを祈ります。

雑感

三年 菊田 龍

先日クラスの女の子が髪をバツサリとショートカットにしていたので、その子の彼氏に「処女っぽくなったね」といったら、後日その子の彼氏に「サイテー」と言われて、感じてしまったDMな変態ほくちゃんが存在に気づきました。

雑感

三年 竹田 一博

中学の頃に「ピザって十回言ってゲーム」が流行った。ヒジを指差して「ここは？」と聞くと思わず「ピザ」って答えてしまう例のゲームである。

そこである日僕はアラビア語の先生に「先生、ピザって十回言って〜」と言うと「*عمر عكر عكر عكر عكر عكر...*」とアラビア語で返された。

不安を覚えつつも一応ヒジを指差して「じゃ、ここは？」って聞くと

「*أعوذ بالله من أعداء المسلمين*」

すると突然、先生の怒りの琴線に触れたらしくマジ切れし始めた。

僕は怖くなったのでマツハで逃げた。

あれ以来怖くて先生とは話していない。

〜第二話〜「お手てのシワとシワを合わせてナマステ」乞うご期待!!!

雑感

三年 田尻 昌士

今年もメタボのままでした。来年こそはメタボ脱却したいと思います。

雑感

四年 大井隆之介

今年引退してからの夏休み期間に、誰にも知られることもなくついに自分の大切な「あるもの」が大台を突破したのである。その「あるもの」との初めての出会いは僕が高校一年生の夏だった。それから八年の間、「あるもの」は長崎の町を中心に地道に走り続け、ついに大台である一〇万kmを超えたのである。この瞬間をすぐ目の前で見ることができ、本当に感動しました。もうお分かりいただけただろうか。その「あるもの」とは、何を隠そう自分の愛車「白色のストリーム」である。

大学に合格するまでの五年間は一度も運転することはなかった。そしてストリームが初めてデビューすることになったのは僕が一年生の時の長大祭だった。このデビュー戦からハプニング続きだった。当時はまだ免許を取ったばかり

りということもあり自分の運転が未熟で、誤って電停に衝突しそうになったり、急ブレーキを何度もかけたためクレームの生地が大量にこぼれてしまったりと大変でした。長大祭期間中、買っておいた牛乳パックと一緒に乗っていた人が踏み潰し大量の牛乳がこぼれ、その後しばらくは車内中腐った牛乳の香りが続いた(涙)。

その後も自宅の壁にストリームを激突させることもあったり、時にはエンジンから異常な音が出続けたりと、知らない間にストリームはボロボロになっていった。だけど、どんなに傷がついても、どんなにガソリンが切れかかりそうになっても、このストリームどこまでも走り続けるんですよ。なんかストリームが自分と似ているような気がして、ますます愛着が湧くようになってきた今日この頃です。いつか本当に自分と話せるようになる日が来るのではないかと思う時もあります。

ともかく、一〇万km突破おめでとうございます。毎日ストリームには本当に感謝しています。そして、これからもよろしく願います。そんなことを思いつつ今日もストリームはたくさんの人達と多くの思い出を乗せて長崎の町を走っているのです。

雑感

四年 粕谷 泰祐

このシーズン最終レースとなった敗者復活戦では、天候不順によりコンディションにばらつきはあったものの全体で四位のタイムだった。

例年と比べれば過去最高のタイムだ！

スキル面では時間の制約がある中でいけるとこまでいけたと思う。

では何が足りないのか。

やはり、フィジカル面だ。

二〇〇〇mエルゴのタイムが、一番遅いローヤードでも六・四五を切るクルーと、クルー平均が七・〇〇を切るかどうかというクルーでは、スタート直後とレース終盤で圧倒的な差がでる。

軽さとテンポで攻めるにしても、ある程度のフィジカルが伴わなければ勝てない。

M1Xでインカレ決勝まで進んだ佐賀医の中村大地さんは、スキルの高さもさることながら、一〇〇〇mすぎてからの伸びには感動すら覚えるほどだった。

今季のインカレでうちが目指した漕ぎそのものだ。

彼曰く、スタートは他の選手に劣るが終盤まで落ちなければ必ず刺せるといふ信念のもと、レースを組み立てていきたい。

終盤での追い上げを可能にしたのはスキルだけでなく、その下地になるフィジカルだと思う。

ある程度のフィジカルがなければ表彰台にはとどかない。

後輩たちには、オフシーズン中にフィジカル強化を頑張ってほしい。

エルゴはキツイが、体力の向上だけでなく、回した分だけ自信にもつながるのでぜひ自分自身を追い込んでほしい。

一年後の栄光は、冬場の地道なトレーニングの先に待っている。

雑感

四年 上瀧 善邦

スイープオール

五六〇〇〇円

バックステイ

八〇〇〇円

シート

二〇〇〇〇円

ストロークコーチ

一八〇〇〇円

コックスボックス本体

四八〇〇〇円

一か月の部費

四〇〇〇円

一か月の養育費

四五〇〇円

ボートに費やした日々

プライスレス

お金では買えない価値がある、そんな四年間でした。

雑感

四年 丹下 寛也

次の糞ゲーを探す。

雑感

四年 朝野 寛規

部活おわたー(´0´)/

雑感

四年 三瀧 正秀

とうとう引退してしまいました。

思えば四年間あつという間でした。今だに入部したのが
つい先日のように思えてなりません。

特にコックスをやっていた最後の二年間は、Aクルー
に関わっていたり（最終的にはBのコックスでしたが）幹
部だったりで常にプレッシャーを感じながらの毎日でした
が、今はそれから解放されて、ふわふわした変な感じがし
ます。

やつと終わった、と思うとともになんか寂しい。引退し
ていった先輩方が言っていたことが、今になるとよくわか
ります。もう今までみたいに一線で挑戦することはできな
いんだなーって。

これからは後輩たちの活躍を、のんびりお茶でもすすり
ながら楽しみに見たいように思います。

雑感

五年 川口祐太郎

今年は、教育クルーに乗らせて頂きました。厳しい練習をさせたのに、思うような結果を出せなくて本当に申し訳なく思います。応援して頂いたOBの先輩方、本当にありがとうございました。

現役の皆さん!!

引退した先輩方が、ボートを漕いでいたあの頃が一番楽しかったとよく言われていましたが、それは本当です。僕も漕いでいた頃は実感がありませんでしたが、「過去の思い出になる」と楽しいボートライフを仲間と送ってください。

そして明日も遅刻せずに五時に集合しましょう。

雑感

五年 陣野 太陽

部活を引退して一年ちよつと（いや、二ヶ月?）、部活でのことを振り返ってみると、あらためて自分のクソさ加減を感じさせられる今日この頃。ポリクリ始まって四ヶ月、

ここでも自分のクソさが思い知らされる今日この頃。自分という人間が部活やまわりの仲間にプラスの仕事をしてきたのか、しているのか、はなはだ疑問に思ってしまった、歩いているとき一歩ごとに自分に向かって「うせろ」と腹の中で思ってしまう始末。しかし一つ、誇れるものがある。それは、キンタマ。

大きさでいえば、俺のキンタマは世に出しても恥ずかしくないと思う。後輩諸君、背中ではあなたたちに何かを示すことはできなかったかもしれない。しかしタマを通して俺のメッセージは伝えてきたつもりです。自信がなくなるとき、道に迷ってしまったときは俺のゴールデンボールを思い出してくれればと思う。なんなら、写メ送ります。フレフレ、ボート部！フレフレ、キンタマ！

標準ボート学

五年 水野 貴基

僕は四年の夏で引退して悠々自適な生活を送っていました。旅行、いつでもできる友達との飲み会、たまに思いついたらする勉強、ゲームなど……。ところがある日、そんな幸せな生活を打ち砕くように一本の携帯がなりました。キャプテンのO井から。

その電話で僕は言ってしまった。「O井、ボートが

したいんです」と。それから、髪をさっぱり切って練習に参加していました（いや、髪は普通に伸びたから切ったんですけど）。歯の歯石もとつたし（ついでに親知らずを四本抜く羽目になった）。結果的に西医体までクルーとともにボートに乗らせてもらったわけです。

実際ポリクリやなんやかんやで時間の融通がきかず、クルーはじめ、現役部員にはたびたび迷惑をかけてしまいました。一艇に一人の五年生であればなんとかできてしまいうのかなと思えました。五年生までボートをさせてもらえたことを感謝しています。

マラソンに挑戦

六年 北村 健二

大学に入ってやってみたいと思っていたことの一つがマラソンである。

今年のはじめ頃、たまたま第一回大阪マラソン（十月三十日開催）の申し込みが行われているのを見つけ、とりあえず申し込みを行なった。五月ころにメールで落選のメールが来て縁がなかったと思つて大阪マラソンのことを忘れてかけていたが、七月に繰り上げ当選のメールが来た。これはやるしかないと思ひ参加することを決めた。

しかしなかなか練習する気になれず、また喘息にもなっ

てしまいさらに練習する気を失っていった。九月になつても練習をしていなかったが同級生のマラソン仲間が「二〇km走つた」と言っているのを聞き、早く練習しなくてはいけないと思ひ九月九日はじめて走つた。

はじめは五km走り切ることもできず、歩いたりしていたが、何度か続けているうちに一〇km、一五km、二〇kmと走れる距離を伸ばしていった。練習を重ねていくうちに同じ距離であつても以前より楽に早く走ることができるようになり、四二・一九五km走りきる自信がついてきた。ここまでは順調だったが、本番二週間前、練習中に股関節を痛めてしまった。以後練習の際には三kmも走れば痛み出すようになったので、大会までは軽いランニングをする程度でほとんどを休養にあてた。

大会当日、股関節痛はほとんど感じる事がなく、ほぼ体調万全で臨むことができた。

大阪マラソンは三万人の市民ランナーが参加しており、マラソン未経験の僕は後ろからのスタートだったので先頭がスタートして十八分後にスタートとなった。スタート直後より人がかなり密集しており、自分の走りたいペースで走ることができず人ごみを抜けるためにジグザグに走つた。一〇kmを超えると多少走るペースができ、ある程度自分のペースで走ることができた。しかし、距離が進むにつれてもともと痛めていた股関節は痛みだしてきた。それでもハーフは一時間五七分とまずまずのペースで

折り返した。後半、ペースを一定に保つことはなんとかできていたが足全体が重く筋肉の疲労を感じ出した。三〇kmは二時間四九分で通過。目標の四時間を切るにはぎりぎりのタイムであった。何とかこのペースを落とさずにいきたかったが、ここから筋疲労と股関節痛はピークに達しかなりペースダウンとなつてしまった。走る前から聞いてはいたものの三〇kmを過ぎてからの走りは予想をはるかに超えるきつさであった。三二km過ぎ、ついには股関節痛のため走り続けることができなくなり、一旦止まってストレッチをしては走るといふことの繰り返しとなつた。最初の1kmと違い、後半の1kmは非常に長く遠いものだと感じた。それでも何とか歩みを進め、残り三km、二km、一kmとなつていくうちにテンションが上がり、足取りも幾分軽く感じた。最後は残りの力を振り絞り走りきつた。最終的にタイムは四時間十八分だった。目標のタイムには及ばなかったものの、五十日前五km走りきることすらできない状況から四二・一九五km完走できるまでに至つたことはそれなりの満足感を感じた。

今回のマラソンを通して改めて何事もやれば何とかなるものだと思つた。今後はたらくようになってもやりたいと思つたことにどんどん挑戦してみたいと思う。

現役部員は、ボートはもちろんのこといろいろなことに挑戦し充実した学生生活をおくつてほしいと思う。

三十路を迎えるにあたって

六年 中原 知之

二十歳になるときにも確か思ったが、こんな三十歳がいていいんだろうか：子供の頃に想像していたのは、三十にもなつたらちゃんと働いて、家庭を持ち：という感じであったが実際は未だ学生で、卒業するのもやつとということろだ。

きつと、こんな感じで自分の想像とのギャップが埋まらぬまま四十になり、五十になりおじいちゃんになつてしまふのだろう。

外見が老いていくのはしょうがない。

でも、感性はいつまでも若くありたい。

いくつになつても馬鹿が出来るオヤジでありたい。

雑感

六年 東 祥嗣

今回で最後の雑感だ。五年間、毎回適当なことを書き、ひどいときはたった一行だった。

今年は官能小説でも書いてやるか。と思つたが、文才がない自分が書いても仕方ないのでちよつと過去を振り返る

うと思う。

自分は入学当初バドミントン部に入ろうと思っていた。自分のスポーツ歴は陸上のみでバドミントンの経験なんてないのだが、一生やれそうなスポーツがしたいと単純に思っていた。しかし、入学してすぐおこなわれた生協パーティーで、ボート部の先輩にそのかされ、「やつぱり部活するなら体力、精神力が鍛えられる部活がいいだろ!」と約十五分で勘違いしてしまった。ボートがなんなのか、ペーロンみたいにUターンするのか、なにもわからず入部した。

その後、三ヶ月間は地獄だった。不思議な先輩と変な同級生、そして団体行動が出来ないポンコツな自分がほぼ毎日顔を合わせ、ひたすら子々川を往復する練習はくるしかつた。しかしながら浜松で行われた西医体で新人選二位がとれたのは本当にいい思い出である。

二年から四年まではコックスとして活動した。自分は身長一七三cmあるため、五五kgは正直しんどく、最高九kgダイエツトしていた。当時は結果がだせず、本当に漕手には申し訳なかった。ただ、幸運ながら混成クルーでなく、長崎大学医学部五人で国体予選(九州ブロック)突破し、本選出場できたことはいい思い出である。

現在、卒試も無事に終わり、マッチングも長崎大学病院という平凡な研修先に決まり、あとは国試のみとなった。最近の日課は、コックスだったためほとんど身体は鍛え

られなかった反動なのかほぼ毎日筋トレもしくは走っている。最近は勉強部屋より筋トレルームにいる時間が長い…。目標は体重七〇kgと腹筋を割ること。あとは、結婚するとき奥さんをお姫様抱っこできるような男になること。何事も目標があるほうがいい。

つまらない文章で六年間をしめるのは残念だが、今いえることは、本当にボート部でよかった。ボート競技によって精神的にも肉体的にも入学当初より成長させていただいた。また、この部活の運営をささえてくださるOBの先生方、指導してくださったコーチ、先輩方には本当に感謝している。

雑感

六年 藤田 拓郎

ついに雑感も書き納めである。え?卒試大丈夫だったんですかって、それは禁句です…

まだ卒業判定は出てませんが(十一月六日現在)、きつと大丈夫でしょう。なぜなら、僕が、ボート部だからです。最後はあまり長々とならぬように、したいと思います。

諸先輩方、ほんとに色々ありがとうございました。これからもご指導、ご鞭撻のほどよろしく願います。同級生の皆様、いろんな思い出をありがとうございます。みんなのお

かげで六年間ボート部を続けてくれました。後輩のみなきん、困ったことがあったら、何でも言ってきたください。みんなの力になれる先輩になりたいと思います。

雑感

六年 松浪 周平

いよいよ最後の雑感となりました

最後は今までのボート人生でも真面目に振り返ってみようかと思つたわけです

が、書くこと全く浮かばんわけでした、これが

いやゝ困つた：

つらつらとあつた出来事書いていくのも芸がないしてか色々ありすぎてまとめきれないし

それだけ六年間のボート人生は充実してたということでしょう

そういうことにしときます

しかし今にして思い返すと、六年間あつという間に過ぎていったような気がします

残つたのは多くの思い出と、素晴らしい(笑)仲間と、

鍛え上げられた(笑)肉体と

す
これらを自分の財産として大切にしていきたいと思いま

書くこと無いって言つてたら、ひ〇がしさんに勉強部屋の事でも書いたら、とアドバイスを受けたので、それについて少しだけ

ご存知の通り六年生になると国試に向けて、勉強部屋なるものが割り当てられます

もう十二月ともなれば、その部屋に缶詰め状態になるわけでした

さて、俺の勉強机には、ワンヒ〇ースグッツがチラホラありますが、それと一緒に今大人気のアイドルグループ〇KBのNo.2、〇島優子の写真が貼つてあります

これはひが〇しさんに貰つたもので、俺自身もとはシノマリ派であつたわけですが、毎日顔を合わせているとサブリミナルとも言うのでしょうか、不思議なもので今では「優子可愛いよ優子！」状態でございます(笑)

あの恋愛禁止〇KBの〇島優子が月9でベッドシーンを演じた、と聞いた日には少なからず動揺を覚えたものです

あ、キモいなんて言わないでください。あ、視線が痛い
です×

しかし、勉強ばかりのつまらない空間である机に癒しをくれる彼女の笑顔

元気が出ますね〜

やはり、女性の一歩の武器は涙ではなく笑顔である、とつねづね思う次第です

とまあこんなことをブツブツ言い出すくらい六年は勉強せんといかんのです（笑）

もつと勉強頑張っておくべきだったと先に立たない後悔をする訳なのですが

何かグダグダになってきました（笑）

ここまで読んでくれてる人いるのかな？

六年目の雑感が一番適当な気がします：

まあ「雑な感じ」略して「雑感」ということで（笑）

しかし、締め切り引つ張りに引つ張った挙句できた文章がこれか！と、〇んげに怒られそうですね（笑）

皆さん、雑感はあるべく期限内に書いてあげるのが部誌係への優しさですよ！

何度も催促するのは面倒なんですから！！

最後にこの事を念押しして締めようと思います

長崎大学医学部漕艇部のますますの健闘を祈って

平成 23 年度 長崎大学医学部漕艇部 収支報告書

2010年10月～2011年9月迄

支 出 摘 要	OB会ご援助	前年度比較	部員自己負担額	
西医体遠征費	1,000,000	-100,000	475,000	内訳は別に記載
九州学生レガッタ	0	×	182,000	出艇料×2、借艇料×2
九朝レガッタ遠征費	0	-180,000	180,000	
九州・山口大会遠征費	285,600	135,600	112,000	主管校補助がない分だけ昨年度より増額
インカレ遠征費	250,000	50,000	160,000	内訳は別に記載
関西朝日レガッタ遠征費	21,500	-78,500	0	震災により大会中止 繰り越しへ
関西選手権遠征費	0	-50,000	75,000	
事故修理整備代金	73,060	73,060	0	
蓋世および雄図の補修費用補助	125,405	125,405	0	
オール購入費用	227,850	227,850	0	スweepオール×4本
coxボックス購入補助	49,035	×	0	
スピーカー購入補助	5,145	×	0	
ストレッチャーボード購入補助	28,350	×	0	
シート購入補助	27,800	×	0	
その他工具、部品代	0	×	300,693	部員が自費で購入した部品、工具の総額
モーターボート燃料、部品、修理費	0	×	93,865	
練習時交通費	0	×	276,525	
平成22年度部誌発行費	170,000	-625	0	(H22年度発刊分 第32号)発行費
部誌送料	34,560	×	0	
新入生勧誘費	300,000	0	480,000	
日本ボート協会登録料	0	×	33,000	
長崎県ボート協会、協会役員、理事特別負担金	78,500	1,500	5,000	
国体艇運搬費	5,000	×	0	
船舶検査証書再交付手数料	0	×	4,350	モーターボートの検査証明書
コーチ代	478,237	×	0	コーチ契約料36万円、遠征交通宿泊費118237円
平成23年度新入生歓迎会案内往復はがき代	15,000	×	0	
その他 通 信 費	0	×	23,600	切手、はがき、封筒、送金料
合 計	3,175,042	×	2,221,033	

会 費 納 入 人 数	
平成17年度	53名
平成18年度	50名
平成19年度	55名
平成20年度	59名
平成21年度	75名
平成22年度	61名
平成23年度(9月末日時点)	54名

長崎大学医学部漕艇部OB会会則

第一条 本会は長崎大学医学部漕艇部OB会と称する。

第二条 本会の事務所は、長崎大学医学部漕艇部に置く。

第三条 本会の目的は、漕艇部の円滑な運営の為に、精神的、物理的な援助を行い、あわせて部員の身体の練成ならびに陶冶を図り、会員相互の親睦をはかるものである。

第四条 本会は、漕艇部のOBからなる一般会員ならびに本会の主旨に賛同する賛助会員をもって組織する。

第五条 本会に下記の役員を置く。

(1) 会長 一名

(2) 副会長 二名

(3) 顧問 若干名

(4) 総務 若干名

(5) 会計監査 一名

第六条 会長、副会長、総務、会計監査はOB会にて互選し、顧問は、会長が委嘱する。

第七条 役員の任期は、一年とする。ただし、再選は妨げない。

第八条 漕艇部顧問教官は、OB会に出席し、部の事情を説明しなければならない。

第九条 総会は、年に一度これを開くものとする。

第十条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもつて当てる。

第十一条 本会の経費は、一般会員より徴収し、会費は年度ごとに総会において決定する。

第十二条 本会の会計年度は、毎年四月一日より始まり翌年三月三十一日に終わる。

第十三条 本会の予算、決算は、総会の承認を得なければならぬ。

第十四条 本会には下記の帳簿を備える。

(1) 会則

(2) 会員名簿

(3) 会計簿

第十五条 会則の変更は、総会の承認を得なければならない。

付 則

この会則は、昭和五十四年度四月一日から施行する。

(昭和五十五年三月二十二日改正)

長崎大学医学部漕艇部OB会会員名簿

氏名	勤務先		勤務先住所		勤務先電話番号		E-mail address 1	E-mail address 2	医局 卒業年度
	勤務先 自宅	勤務先住所	勤務先住所	勤務先住所	自宅電話番号	自宅電話番号			
1 長西 靖	731-5125	長西耳鼻咽喉科医院: 広島市佐伯区五日市駅前町1-11-37	082-923-8122						S46
2 冬野 誠三	731-5125	広島市佐伯区五日市駅前町1-4-5-811	082-923-5839						
	847-0844	なびたけ冬野クリニック: 唐津市菜畑3660-1	0955-75-2220				Nabatake@star.saganet.ne.jp		
	847-0844	唐津市菜畑4208-57	0955-74-7378				fuyuno@matsuronet.co.jp		S48
3 松本憲一良	847-0846	松本内科クリニック: 堺市鳳西町1丁-92-2	072-264-0588						S49
	592-0003	大阪府高石市東羽衣4-5-4	072-264-8828				kema@violetplala.or.jp		
4 峰 雅宣	854-0034	諫早市小野町332管整形外科病院	0957-23-2388						第1内科 S49
	847-0849	長崎市柳谷町4-13	095-847-6031						
5 朝戸 末男	891-9112	朝戸医院: 鹿児島県大島郡和泊町和泊14	0997-92-1131						S50
	891-9112	鹿児島県大島郡和泊町和泊16	0997-92-2280				sasato@niscnet		
6 内田 隆寿	859-4825	青州会病院: 長崎県北松浦郡田平町山内免612-4	0950-57-2155						第2外科 S50
	857-0135	長崎県佐世保市瀬戸口11-30							
7 桜井 一枝	720-0822	みつふじ小児科: 福山市川口町2-22-11	084-953-0307						小児科 S50
	721-0952	広島県福山市曙町5丁目24-38	084-954-4454				mitsufuji@fukuymama.hiroshimamed.or.jp		
8 瀬戸 信二	852-8501	井上病院: 長崎市宝町6-12	095-849-7288						第3内科 S50
	852-8052	長崎市岩屋町17-2	095-857-1808				s-seto@nagasaki-u.ac.jp		
9 早田 篤	850-0031	長崎市役所中央保健センター	095-829-1154						小児科 S50
	847-0859	長崎市立岩町77-10	095-862-5622						
10 田川 泰	852-8520	長崎市坂本1-7-1長崎大学医歯薬総合研究科保健学科専攻	095-819-7000						第1外科 S50
	851-2128	長崎県西彼杵郡長与町嬉里郷98-12	095-887-1391				tagawa@netnagasaki-u.ac.jp		
11 富海 五郎	790-0903	松山記念病院精神科							愛媛大精神科 S50
		愛媛県松山市東野1丁目6-15	089-977-1812						
12 中野 文耕	853-2301	新上五島町立若松診療所: 長崎県南松浦郡新上五島町若松郷281	0959-46-3315						第2外科 S50
	853-2301	長崎県南松浦郡新上五島町若松郷281	0959-46-3318				メー儿は使わない		
13 丹羽 正美	852-8523	長崎大学医学部第1薬理学教室: 長崎市坂本1-12-4	095-819-7041						第1薬理 S50
	852-8052	長崎県長崎市岩屋町20-28-1001	095-883-6395				niwa@netnagasaki-u.ac.jp		
14 馬渡 一雄	850-0001	まわたり内科医院: 長崎市西山2丁目9-2	095-822-0101						第3内科 S50
	850-0001	長崎市西山2丁目9-2まわたり内科	095-822-0101						
15 石川 治	670-0936	石川医院: 姫路市古二階町135	0792-23-3270						岡山大外科 S52
	670-0936	姫路市古二階町12	0792-23-1307						
16 川口 昭男	850-0045	井上病院: 長崎市宝町6-12	095-844-1281						第1外科 S52
	852-8046	長崎市柳谷町14-27	095-847-5529						

氏名	勤務先	勤務先病院:勤務先住所	勤務先電話番号	E-mail address 1	E-mail address 2	医局 卒業年度
	自宅	自宅住所	自宅電話番号			
17 神田 源太	不明	不明	095-822-7051			皮膚科 S52
18 田中 精一	193-0832	長崎市片淵1丁目12-7 南多摩病院:東京都八王子市散田町3-10-1	042-663-0111			女子医大消化器センター S52
19 堤 健二	193-0811	東京都八王子市上巻分方町246-1	042-651-7640	s-tanaka@xa2.so-net.ne.jp		脳外科 S52
20 吉良 満夫	833-0054	つづみ脳神経外科クリニック:福岡県筑後市大地蔵数642-7	0942-42-1155	k-tutumi@mx2.ttkine.jp		第2外科 S54
21 出口 正巳	839-0863	久留米市国分町1121-9 アドバンテイング分B-1	0942-22-3272	kirata@mx.b.cncm.ne.jp		形成外科 S54
22 井上健一郎	852-8008	長崎市曙町3-6浜崎外科病院	095-861-6034			第2内科 S55
小村三代治	847-0881	~逝去~				S55
23 江口 圭介	530-0001	大阪府大阪市北区梅田2-4-37 西梅田上島ビル5階医療法人正祥会カリスクリニック	06-4797-4000			第3内科 S55
24 成松 元治	659-0012	兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町17-46	0797-38-8077	dr.eguchi@liver.ocn.ne.jp		心臓血管外科 S55
25 水谷 明正	811-0119	福岡県糟屋郡新宮町緑ヶ浜4丁目5-25(医法)成松循環器科医院	095-871-1515			第2外科 S55
26 小倉 猛	811-0117	福岡県糟屋郡新宮町上府1266-1-906	095-878-3807	akimac@nomo.so-net.ne.jp		形成外科 S56
27 谷川 宗生	847-0890	長崎記念病院:長崎市深堀町1-11-54	095-879-7592	togura@sky.plala.or.jp		第3内科 S56
28 難波 裕幸	850-0963	長崎市ダイヤランド1-36-19	096-379-7592			原研細胞 S56
29 前原 洋二	866-8533	熊本労災病院:熊本県八代市竹原町1670	095-886-8700			S56
30 村山 晋	851-2127	熊本市画図町重富744-13	095-883-4030			S56
31 山近 史郎	847-0894	長崎北病院:長崎県西彼杵郡時津町元村郷800番地	095-827-3606			S56
	851-2127	長崎市松が枝町3番20号:医療法人春秋会	0944-63-2040			S56
	847-0899	長崎県西彼杵郡長与町高田郷858-103	0942-37-5038			S56
	835-0024	森整形外科:福岡県三山市瀬高町大字下庄590	0948-20-7777			S56
	820-0301	福岡県久留米市津福本町786-6グラソピアソソソソ津福1001	092-822-1126			S56
	814-0001	~逝去~				S56
	850-0045	福岡県嘉麻市牛隈2510-4	095-844-1281	stellamurayama@carolocn.ne.jp		三重大第1内科 S57
	850-0804	特別医療法人春回会 井上病院内科・循環器科 長崎市宝町6-12	095-825-3580	yamachika@stnkkkai.jp		第三内科 S57
		長崎市彦見町18-4		shiyama@mx.cncm.ne.jp		

氏名	勤務先		勤務先電話番号		E-mail address 1	E-mail address 2	医局 卒業年度
	勤務先 自宅	勤務先住所	自宅電話番号	自宅住所			
32 岡田 代吉	807-0743	おかだ外科胃腸クリニック:北九州市八幡西区三ヶ森4-9-24-202	093-613-7188	北九州市八幡西区里中1丁目8-22	E-mail address 1	E-mail address 2	558
33 倉富 彰秀	842-0002	医療法人 輝秀会:佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里2435-1	0952-52-8841	佐賀県神埼市神埼町田道ヶ里2435-1	soarer1956@w4.donme.jp	soarer1956@w4.donme.jp	558
34 末永 俊郎	801-0852	末永産婦人科麻酔科:北九州市門司区港町6-15	093-321-2453	北九州市門司区港町6-15	posa@trainocnne.jp	posa@trainocnne.jp	558
35 中崎 隆行	852-8104	長崎原爆病院:長崎市茂里町3-15	095-847-1511	長崎原爆病院:長崎市茂里町3-15	suetoshi@kijiuor.jp	suetoshi@kijiuor.jp	558
36 永見 耕一	758-0025	永見眼科医院:山口県萩市土原351	0838-22-0720	山口県萩市土原351	nakazaki@topaz.ocnne.jp	nakazaki@topaz.ocnne.jp	558
37 永山 雄二	852-8523	長崎大学医学部原研分子教室:長崎市坂本1丁目12-4	095-819-7173	長崎大学医学部原研分子教室:長崎市坂本1丁目12-4	nagammi@haginecne.jp	nagammi@haginecne.jp	558
38 松永 伸彦	854-0072	まつなが眼科:諫早市永昌町43-1	0957-25-8866	まつなが眼科:諫早市永昌町43-1	nagayama@nagasaki-uac.jp	nagayama@nagasaki-uac.jp	558
松尾 圭一	854-0086	長崎県諫早市堀の内町23-2	0957-27-1333	長崎県諫早市堀の内町23-2	matsub6@mochaocnne.jp	matsub6@mochaocnne.jp	558
今里 雅之	~逆 去~	~逆 去~					558
39 小林 誠博	803-0831	北九州市小倉北区日明(ひあがり)4丁目6-28 小林外科医院	093-561-6353	北九州市小倉北区日明(ひあがり)4丁目6-28 小林外科医院			559
40 平野 友久	850-0953	上戸町病院:長崎市上戸町4-2-40	095-879-0705	上戸町病院:長崎市上戸町4-2-40	qq219xwr9@vega.ocnne.jp	qq219xwr9@vega.ocnne.jp	559
41 糸柳 則昭	850-0842	糸柳ズレストクリニック 長崎市新地町1-5 MMビル4階	095-832-7000	糸柳ズレストクリニック 長崎市新地町1-5 MMビル4階	hirano@kenyukai.or.jp	hirano@kenyukai.or.jp	560
42 日高 真	300-1152	茨城県稲敷郡阿見町荒川本郷2032-272:しんたくリニツク	029-875-5666	茨城県稲敷郡阿見町荒川本郷2032-272:しんたくリニツク	itoyanagi@nifty.com	itoyanagi@nifty.com	560
43 松岡 直樹	850-0832	長崎内科リウマチ科病院:長崎市油屋町1-21	095-822-3151	長崎内科リウマチ科病院:長崎市油屋町1-21	hidaka.sin@marroomplalor.jp	hidaka.sin@marroomplalor.jp	560
44 矢次 登	824-0025	福岡県行橋市東徳永382新田原聖母病院整形外科	0930-23-1006	福岡県行橋市東徳永382新田原聖母病院整形外科	hidaka.sin@silc.plalor.jp	hidaka.sin@silc.plalor.jp	560
45 高須 勝也	851-2126	常葉会 長与病院:長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷647	095-883-6668	常葉会 長与病院:長崎県西彼杵郡長与町吉無田郷647	rmatuoka-nae@nagasakimeteor.jp	rmatuoka-nae@nagasakimeteor.jp	561
	859-0407	諫早市多良見町シーサーイナド20-133	0957-43-2654	諫早市多良見町シーサーイナド20-133			561

氏名	勤務先		勤務先電話番号		E-mail address 1	E-mail address 2	医局 卒業年度
	勤務先 自宅	勤務先住所 自宅住所	自宅電話番号	自宅電話番号			
46	中里 貴浩	811-2232	栄光病院消化器内科:福岡県糟屋郡志免町別府西3-8-15	092-935-0147	nakazato@ymtbbj.jp	nakazato@ymtbbj.jp	内科 S61
		811-2103	栄光病院消化器内科福岡県:福岡県糟屋郡宇美町四王寺坂3-19-5	092-934-3648	tnkazato@ekohor.jp	tnkazato@ekohor.jp	産婦人科 S61
47	中山 大介	850-0003	長崎市片淵2丁目5番1号済生会病院婦人科	095-826-9236			産婦人科 S61
		850-0048	長崎市長銭座町12-2	095-848-4575			
48	青木 幹弘	856-8562	国立病院機構長崎医療センター:長崎県大村市久原2丁目1001-1	0957-52-3121	aki@mnc.hosp.go.jp	aki@mnc.hosp.go.jp	小児科 S62
				0957-50-0956			福岡大学精神神経科 S63
49	石井 久敬	812-0884	福岡県博多区奉町2-4-11 石井マンタルユニツク	092-585-3200			
		814-0001	福岡市早良区百道浜4-17-9				
50	岡野 邦彦	852-8102	国立病院機構長崎医療センター:長崎県大村市久原2丁目1001-1	095-819-7321	kuri@netragasaki-u.ac.jp	kuri@netragasaki-u.ac.jp	整形外科 S63
		852-8117	長崎市平野町14-13セントヒルズ平野102号				
51	朝長 道生	843-0301	朝長医院:佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙2188	0954-43-2117			第2内科 S63
		843-0301	佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙2191	0954-43-2132	tomonaga.1962@gmail.com		
52	中島 寅彦	812-8582	九州大学医学部耳鼻咽喉科:福岡市東区馬出3-1-1	092-642-5668			九大耳鼻科 S63
		814-0113	福岡市城南区田島6-2-24	092-871-5238			
53	天野 秀明	852-8055	長崎県長崎市虹が丘町1-1	095-856-1112	froathengymoh@ybhore.jp	froathengymoh@ybhore.jp	呼吸器科 H1
		852-8027	長崎市城山台2丁目30-3	095-864-1101	chinu@ceres.citire.jp	chinu@ceres.citire.jp	
54	金色 正広	805-8534	北九州市立八幡病院麻酔科:北九州市八幡東区西本町4-18-1	093-662-6565			麻酔科 H1
		805-0061	北九州市八幡東区西本町4丁目15-23-705	093-663-3055	kanairo@mars.dti.ne.jp	kanairo@mars.dti.ne.jp	
55	吉川 公正	807-8555	産業医科大学病院:北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1	093-603-1611			脳外科 H1
		808-0016	北九州市若松区原町9-6	093-751-6528	cbq47591@pop06.odn.ne.jp	cbq47591@pop06.odn.ne.jp	
56	旭 隆宏	811-3414	福岡県宗像市光岡5番1号:あさひ小児科クリニック	0940-34-8555			九大小児科 H2
		811-4163	福岡県宗像市自由ヶ丘1-9-7	0940-33-1492	asahi-clinic@orangeplala.or.jp	asahi-clinic@orangeplala.or.jp	
57	白藤 智之	852-8125	聖フラソンスコ病院:長崎市小峰町9-20	095-846-1888			第1外科 H2
		852-8151	長崎市泉1-3-4	095-848-0191	shirahuji@hotmail.com	shirahuji@hotmail.com	
58	寺尾 保信	113-8677	東京都立駒込病院:文京区本駒込3-18-22	03-3823-2101			慈恵大形成外科 H2
		108-0074	東京都港区高輪3-16-8-206	03-3443-5034	y.teraoo@cick.jp	y.teraoo@cick.jp	
59	中村 晋	813-0042	中村内科医院:福岡市東区舞松原1丁目1-6-18	092-681-7363	ryo-n@mniij4uor.jp	ryo-n@mniij4uor.jp	九大第2内科 H2
		813-0031	福岡市東区八田2丁目1-52 ヲエルズ香椎南413	092-662-4414			
60	山本 太郎	852-8523	長崎大学熱帯医学研究所国際保健学分野:長崎市坂本1-12-4	095-819-7869	y-tarou@nagasaki-u.ac.jp	y-tarou@nagasaki-u.ac.jp	熱帯社会環境 H2
		853-8102	長崎市坂本1-11-15-12	090-7462-6959			
61	生田 安司	870-8511	大分県立病院:大分市大字豊薩476番地	097-546-0725			第一外科 H3
		843-0301	大分市新春日町1-4-27 301号	097-547-7973	kutata@oitakenryo.jp	kutata@oitakenryo.jp	

氏名	勤務先 自宅	勤務先病院:勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1 E-mail address 2	医局 卒業年度
62	市川 辰樹	852-8501	長崎大学病院消化器内科:坂本1-7-1	095-819-7267	ichikawa@net.nagasaki-u.ac.jp 第1内科 H3
63	鈴木 康弘	860-8556 862-0924	熊本大学医学部附属病院 熊本市本庄1丁目1番1号 熊本県熊本市帯山二丁目5-74	096-381-9203	熊本第2内科 H3
64	田中 邦彦	852-8523 852-8035	長崎大学医学部第一薬理:長崎市坂本1丁目12-4 長崎市油木町52-93-413	095-819-7043 095-845-8355	kunny-ta@net.nagasaki-u.ac.jp 第一薬理 H3
65	山本 修	850-0004 850-0015	山本外科医院:長崎県長崎市下西山町1-5-1F 長崎市矢ノ平二丁目2-23	095-823-8585 095-824-4600	第2外科 H3
66	劉 中誠	857-0071 851-0137	健康保険諫早総合病院:長崎市諫早市永昌町24-1 長崎市高城台2丁目11-35	0957-22-1380 095-839-2112	cryu@hospital.isahayasougou.jp cryu@ruby.ocn.ne.jp 第1外科 H3
67	黒木 保	852-8102 852-8501	長崎大学移植消化器外科:長崎市坂本1丁目7-1 長崎市小江原4-18-3	095-819-7316	tkuroki-g@urni.nac.jp 第2外科 H4
68	佐藤 俊一	380-8552 380-0803	長野赤十字病院神経内科:長野市若里5丁目22-1 長野市三輪4-2-22 グラントハイツ三輪102号	026-226-4131 026-232-7970	ssato@nagano-med.jrc.or.jp 信州大第3内科 H4
69	趙 成三	852-8101 852-8061	長崎大学病院神経内科:長崎市坂本1丁目7-1 長崎市滑石5丁目 4-80-404	095-819-7370 095-856-3793	chos@net.nagasaki-u.ac.jp 麻酔科 H4
70	津田 純	154-0014 105-0001	津田耳鼻咽喉科:東京都世田谷区新町3-20-1 ゼルジエ楼新町206 東京都南区虎門 3-14-1 2604	03-5450-7237 050-5803-8152	jun_aya_kaoru@nifty.com H4
71	中野 基	857-8511 857-0806	佐世保市平瀬町9-3佐世保市総合病院形成外科 佐世保市島瀬町3-27グランドジュ島瀬ビルズ1202号	0956-24-1515 0956-25-7087	motorakano@hotmail.com 形成外科 H4
72	福井 雅士	850-0045 852-8015	井上病院:長崎市宝町6-12 長崎市春木町15-55	095-844-1281 090-2510-0473	fukunimasashi@hotmail.com 形成外科 H4
73	南 恵樹	852-8501 852-8108	長崎大学病院 移植 消化器外科 長崎市坂本1-7-1 長崎市川口町1-1-1213	0957-63-1145 095-814-7316	shimianri-g@urninet 第2外科 H4
74	竹下 浩明	852-8501 852-8133	長大病院第一外科:長崎市坂本町7-1 長崎市 本原町19-8	095-819-7304 095-800-2696	takehiro@nagasaki-u.ac.jp 第1外科 H5
75	近藤 新二	852-8521 850-0001	長崎市文教町1-14長崎大学薬学部薬物治療学 長崎市西山4丁目511-301	095-819-2448 095-844-7177	kondos@nagasaki-u.ac.jp 形成外科 H6
76	斎藤 将隆	805-0012 805-0016	北九州市立八幡病院:福岡県北九州市八幡東区西本町4丁目18-1 福岡県北九州市八幡東区高見町1-2-25-209	093-662-6565 093-653-2246	麻酔科 H6
77	阪上 学	662-0971	兵庫県西宮和上町1-16さかうえウリニツク		sakaue@anes.meddosaka-u.ac.jp sakaue@ffij4uor.jp 大阪大麻酔科 H6

氏名	勤務先		勤務先電話番号		E-mail address 1	E-mail address 2	医局 卒業年度
	勤務先 自宅	勤務先住所 自宅住所	自宅電話番号	自宅電話番号			
78 松尾 敏明	890-0007 890-0055	ナカノ在宅医療クリニック:鹿児島市伊敷台6-27-10 鹿児島市上荒田町34-1プレミスト上荒田1001号	099-218-3300 080-5283-6203	099-218-3300 080-5283-6203	matsuo@nakanozaitaku.or.jp		H6
79 岩井 敏郎	806-8501 814-0104	九州厚生年金病院:福岡県北九州市八幡西区岸の浦1-8-1 福岡市城南区別府7丁目5-35-1005	093-641-5111 092-821-7225	093-641-5111 092-821-7225			九大心臓血管外科 H7
80 宗 英吾	843-0393 852-8117	嬉野市嬉野町大字下宿丙2436嬉野医療センター 長崎市平野町10-2-301	095-4-43-1120 095-844-5655	095-4-43-1120 095-844-5655			耳鼻科 H7
81 中桶 了太	852-8501 852-8027	僻地医療再生支援教育機構:長崎市坂本1-7-1 長崎市城山台2-10-6	095-819-7773 090-7986-2728	095-819-7773 090-7986-2728	nakaake@netnagasaki-u.ac.jp		第1薬理 H7
82 藤本 武士	857-8511	佐世保市立総合病院:長崎県佐世保市平瀬町9-3	0956-24-1515	0956-24-1515	tfujimoto@hospitaltagawa.fukuoka.jp		第1内科 H7
83 安田恵多良	560-0021 560-0045	やすだクリニック:大阪府豊中市本町2-4-28 大阪府豊中市2-1-7-1	06-6846-2222 06-6531-3133	06-6846-2222 06-6531-3133	yasuda-clinic@piano.ocn.ne.jp		大阪大脳外科 H7
84 古賀 洋安	830-0011	久留米大学病院:久留米市旭町67番地	0942-35-3311	0942-35-3311	coffee35@mx6.tkline.jp hirokkko@mx6.tkline.jp		久留米大小児科 H8
85 城田 利彦			090-9072-8467	090-9072-8467	toshishirota@hotmail.co.jp		九大心臓血管外科 H8
86 関 徹	272-0813 140-0002	静和会中山病院千葉県:市川市中山2-10-2 東京都品川区東品川4-10-18-1507	047-334-3480 03-3450-3813	047-334-3480 03-3450-3813	QWP07174@nifty.ne.jp tr-seki@sa2.so-net.ne.jp		東北大精神科 H8
87 武野 正義	852-8102	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科循環病態制御内科:長崎市坂本1丁目7-1	095-819-7288	095-819-7288	mtakeno@netnagasaki-u.ac.jp		第3内科 H8
88 福田 颯三	838-0141 830-0047	嶋田病院同医院外科:福岡県小郡市小郡217-1 福岡県久留米市津福本町6-47	0942-72-2236 0942-31-5715	0942-72-2236 0942-31-5715			第2外科 H8
89 山里 昌司	825-8567	小波瀬病院:福岡県京都郡苅田町新津字1598	0930-24-5211	0930-24-5211			第三内科 H8
90 岡 真一郎	8700857	大分公立病院:大分市明蹟四組 大分市青葉台1丁目1-5	097-543-1177 097-507-8947	097-543-1177 097-507-8947			第2内科 H9
91 岡田和一郎	440-8510 440-0033	豊橋市飯村町字高山11番地 国立療養所豊橋医療センター 愛知県豊橋市東岩田4丁目5-1Aの301	0532-62-0301 090-1625-8528	0532-62-0301 090-1625-8528			H9
92 牟田口 滋	839-0801 839-0862	久留米市宮ノ陣3丁目3番8号 古賀病院21 久留米市野中町1185-1 アメニティーハイイツ杏栄館202	0942-38-3333 0942-80-4633	0942-38-3333 0942-80-4633	shigemuta@hyabida.jp		九大整形外科 H9
93 大石 正雄	904-8585 904-2165	中部徳州会病院:沖繩市照屋3-20-1 沖繩市宮里3-25-47-301	098-937-1110 098-927-7126	098-937-1110 098-927-7126	moishi999@hotmail.com		形成外科 H10

氏名	勤務先		勤務先住所		勤務先電話番号		E-mail address 1	E-mail address 2	医局 卒業年度
	勤務先	自宅	勤務先住所	自宅住所	勤務先電話番号	自宅電話番号			
94 古賀 聖士	852-8501		長崎大学病院循環器内科 長崎市坂本1丁目4-5-207		095-819-7288	095-849-6085	kogasez@gmail.com		第2内科 H10
95 崎元 暢	173-8610		日本大学医学部眼科:板橋区大谷口上町30-1 港区白金2-7-17-1102		03-3972-8111	03-3443-3313	torusaki@medntrn-u.ac.jp toruotto@mwbiglobe.jp		日大眼科 H10
96 山崎 励至	857-8511		佐世保市立総合病院 857-0043	佐世保市天満町2-9-301	0956-24-1515		reishin@hospital.sasedonagasaki.jp		原研内科 H10
97 高橋 優二	854-8501		長崎大学病院障地病院再生支援教育機構 長崎市泉1-17-3		095-848-841		yujika@pop16.odn.ne.jp		H11
98 谷川 治	838-0068		朝倉健生病院:福岡県朝倉市甘木151-4 福岡市南区平和1-30-13		0946-22-5511	090-4584-1027	os-tanikawa@a-kensei.jp		H11
99 牧野 淳			Department of Medicine, Interfaith Medical Center 110-06 72nd Ave Apt 1A, Forest Hills, New York 11375				junnakino@hotmail.co.jp		H11
100 宮崎 浩充	990-0044		山形市立済生会病院 仙台市青葉区上杉5-8-18-204		0236-25-5555	022-264-1332	hniya1104@yahoo.co.jp		耳鼻科 H11
			山本 経之 ~逝去~						
101 吉野 俊平	820-8505		福岡飯塚病院:飯塚市芳雄町3-83 福岡県飯塚市川島1-7/パークサイド立岩601		0948-22-3800	0948-23-8590	syoshi126@aol.com		飯塚病院 H11
102 澁谷 正樹	755-0067		済生会山口病院内科		083-901-6111		bc8m-sby@asahi-net.or.jp		山口大第2内科 H12
103 土井 晋平	不明	不明							神戸大第2内科 H12
104 福田 義文	651-2274		兵庫県立光風病院 神戸市西区竹の台4-21-5		078-581-1013 090-4578-6523	078-991-5883	a807445@moco.ne.jp		H12
105 程野 茂樹	790-8524	不明			089-964-5111	089-983-3504	hodonoo@id5.sor-net.ne.jp		愛媛大麻酔科 H12
106 松永 祥志	857-0056		愛媛県伊予市下吾川676-1 佐世保市立総合病院麻酔科:佐世保市平瀬町9-3		0956-24-1515				脳外科 H12
107 及川 将弘	852-8102		長崎大学病院第一外科:長崎市坂本1-7-1 852-8135 長崎市千歳町5-26 チトセピア南棟1003		095-819-7304	090-1167-8282	oimasa@iris.dti.ne.jp		麻酔科 H13
108 森 創	100-8916		厚生労働省(順天堂大学公衆衛生学教室より出向)東京都千代田区霞ヶ関1-2-2 272-0033 千葉県市川市市川南4-1-5		099-267-1455		morihajime@mlw.go.jp neomoriso@k2.dion.ne.jp		H13

氏名	勤務先 自宅	勤務先病院:勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号		E-mail address 1	E-mail address 2	医局 卒業年度
			自宅電話番号	自宅電話番号			
109	ウイケンソノ	300-1296 300-1236	牛久愛和総合病院:茨城県牛久市猪子町896 茨城県牛久市田宮町137-144 201号室	029-873-3111 090-9408-8805			心臓血管外科 H13
110	松本 周平	852-8102 852-8041	長崎大学病院麻酔科:長崎市坂本1-7-1 長崎市清水町3-23-506	095-819-7370 095-843-2536			H13
111	諸藤 陽一	856-8562	国立病院機構長崎医療センター:長崎県大村市久原2丁目1001-1	0975-62-3121			H13
112	蓬萊 彰士	856-8562	国立病院機構長崎医療センター:長崎県大村市久原2丁目1001-1	095-819-7041 090-1369-5720			精神神経科 H14
113	青山 英和	755-8505	山口大学病院第二内科:宇部市南小串1-1-1	0836-22-2248			山口大第2内科 H14
114	西條 知見	852-8502 852-8116	長崎大学病院第二内科:長崎市坂本1丁目7-1 長崎市平和町22-4 トミール平和201号	095-819-7273 090-6890-8750	t-saijo@urnin.ac.jp		第2内科 H14
115	高木 理博	591-8025 591-8025	近畿中央胸部疾患センター:大阪府堺市北区長曾根町1180番地 大阪府堺市北区長曾根町1180番地 RC-2-221	072-252-3021 072-259-5310	rhaku1@muebiglobe.ne.jp		熱研内科 H14
116	田邊 孝大	130-0022 130-0022	都立墨東病院救急救命センター:東京都墨田区江東橋4丁目23-15 墨田区江東橋4丁目13-25 都立墨東病院医師公舎322号	03-3633-6155 090-9604-7079	tanestnt@yahoo.co.jp		麻酔科 H14
117	渡辺 庸平	980-8574 980-0011	東北大学病院小児科:仙台市青葉区星陵町1-1 仙台市青葉区上杉2-4-6-701	022-717-7744	nabe-76@eagle.ocn.ne.jp		小児科 H14
118	崎元 晋	565-0871	大阪府吹田市山田丘2-2:大阪大学眼科学教室		skmtssm7923@yahoo.co.jp		阪大眼科 H15
119	猪狩 圭介	849-0915	佐賀県佐賀市兵庫町大事藤木43-1ゾロムナード夢咲南棟203				H16
120	近藤 学	755-8505 755-0049	山口大学医学部第3内科研究室:山口県宇部市南小串1-1-1 山口県宇部市西琴芝2丁目2-5-302	0835-22-4411 0836-35-2524	golg0307@hotmail.com		H16
121	田浦 康明	852-8502 852-8002	長崎大学病院腫瘍外科 長崎市富士見町16-7-301	078-732-6961			H16
122	豊田 啓介	856-8562	長崎大学病院脳神経外科	095-819-7375	enzokun7@yahoo.co.jp		H16
123	山口 仁平	852-8134	長崎市民病院耳鼻科 長崎市大橋町23-7 サンパーク文教通り603		yrimpei@hotmail.com		H16
124	吉武 記一	747-0836	山口県防府市大字植松1799	0835-29-0363	kichi_12_23@yahoo.co.jp		H16

	氏名	勤務先		勤務先電話番号		E-mail address 1	E-mail address 2	医局 卒業年度
		勤務先 自宅	勤務先病院: 勤務先住所 自宅住所	自宅電話番号	自宅電話番号			
125	高田 潤	533-0033	大阪市立大学病院整形外科 大阪府大阪市阿部野区旭町1-3-3 アペリウザ408号	06-6320-4075		a105105@ycho.jp		H17
126	荒木孝太郎	816-0814	福岡県春日市須玖北4丁目5番地:福岡徳州会病院	092-573-6622				
127	夏田 孔史	856-8562	国立病院機構長崎医療センター:長崎県大村市久原2丁目1001-1	090-7152-2717		kotaro002@hotmail.com		H18
128	冬野 誠也	856-0026	大村市池田2丁目601-1 ティアコート池田B103			no_rain_no_rainbow1018@yahoo.co.jp		H18
129	山道 忍	814-0002	福岡市早良区西新2丁目21-8西新パークホームズ901			seilet@icmhhome.jp		H18
		852-8511	長崎原爆病院:長崎市茂里町3-15	095-847-1511				
		851-1131	長崎市上浦町112	095-841-0756		bwsn147@ycho.jp		H18
130	大場 修治	901-0493	南部徳州会病院:沖縄県島尻郡八重瀬町字外間171番地1	098-998-3221		s301027r@hotmail.co.jp		H19
131	茅田 洋之	653-0013	神戸市長田区一番町2丁目4番地:神戸市医療センター西市民病院	078-576-5251				
		652-0803	神戸市兵庫区大関通5丁目2-33-202	090-5285-5253		hazawachainsaw1982@yahoo.co.jp		H19
132	末下 雅也	855-0861	長崎県島原病院:長崎県島原市下川尻町7895番地					
		852-8116	島原市湊町87	090-9599-0007		apple47@themis.ocn.ne.jp		H19
133	西山 光郎	752-8510	関門医療センター:下関市長府外浦町1番1号	083-241-1199				H19
134	原口 雅史	857-1195	佐世保中央病院:佐世保市大和町15	0956-33-7151				H19 消火器内科
		857-0863	佐世保市三浦町21-23 エムエー佐世保マンション801					H19
135	松浦 良樹	850-0953	長崎市上戸町4丁目2-20上戸町病院医局	099-267-1455				H19
136	福島 真典	852-8501	長崎大学病院:長崎市坂本1丁目7番1号	095-819-7200				
		852-8113	長崎市上野町3-2 201号室			ma_fu_nurrc@yahoo.co.jp		H20
137	村田 慎一	901-2132	沖縄県浦添市伊祖4丁目16番地1号	098-878-0231				H20
		901-2103	沖縄県浦添市仲間2-15-7 トリムマンション301号室	080-5609-9432				H20
138	日野 直之	857-1165	佐世保中央病院:佐世保市大和町15	0956-33-7151				H21
		857-1151	佐世保市日字町2706-1 レビューージュ504号	090-4516-0301		nao_nino_0921@yahoo.co.jp		H21
139	長 哲太郎	590-8505	耳原総合病院:大阪府堺市堺区協和町4-465	072-241-0501				H21
		555-0024	大阪市西淀川区野里1-12-24 fairy court 601号			tetsutarou.cho@gmail.com		H21
140	山本 悠造	810-0001	福岡市中央区天神1丁目3番46号	092-771-8151				H21
		810-0003	福岡市中央区善吉3-26-12 1003					H21

	氏名	勤務先 自宅	勤務先病院:勤務先住所 自宅住所	勤務先電話番号 自宅電話番号	E-mail address 1	E-mail address 2	医局 卒業年度
141	笠原 優人	651-1112	社会保険神戸中央病院 兵庫県神戸市北区惣山町2丁目1番1 兵庫県神戸市北区鈴蘭台東町9丁目13番23サイコー ト鈴蘭台201号	078-594-2211			H21
142	江頭 崇	852-8501	長崎大学病院:長崎市坂本1丁目7番1号 長崎市柳谷町12-13				H21
143	小松 直広	852-8501 852-8112	長崎大学病院:長崎市坂本1丁目7番1号 長崎市本尾町27番26号スプリングビルズ102号				H21
144	高橋 一臣	466-8650 466-0814	名古屋第二赤十字病院 名古屋市昭和区妙見町2番地9 愛知県名古屋市昭和区妙見町75-1 トーラム高峯4006号	052-832-1121	omionion1031@gmail.com		H21
145	梅田 雅孝	852-8501	長崎大学病院:長崎市坂本1-7-1 長崎市坂本2丁目8-10 ハイツ翼II202号	095-819-7200 090-7388-2910	masatakaka0807@m2.gyaone.jp		H22
146	古賀 俊充	296-8602	亀田総合病院:千葉県鴨川市東町929番地	04-7092-2211			H22
147	友延 寛	810-8563 814-0001	福岡市中央区地行浜1-8-1 福岡市早良区百道浜1-6-45-c314	092-852-0700 090-2964-7335	tomonobe@live.jp		H22
148	濱口 陽	852-8501	長崎大学病院:長崎市坂本1-7-1 長崎市油木34-5	095-819-7200 090-2969-3554	hamahama0216@softbank.jp		H22
149	松岡 若利	815-8588 815-0074	福岡市南区塩原3丁目23番1号 福岡市南区寺塚1丁目6番5号/パロマヴィラ寺塚105号	092-541-4936 090-5725-8729			H22
150	岩津 伸一	852-8501 852-8102	長崎大学病院 長崎市坂本1-4-5-402	090-7448-4206			H23
151	上木 智博	850-0953 850-8102	長崎市上戸町4丁目2-20上戸町病院 長崎市坂本1-13-53-203	090-2501-9041			H23
152	大橋 和明	850-8501 852-8102	長崎大学病院:長崎市坂本1丁目7番1号 長崎市坂本1丁目10-10ライ・プロGRESS坂本201	090-5928-4023			H23
153	三反田拓志	540-0006 540-0006	大阪医療センター:大阪市中央区法円坂2-1-14 大阪市中央区法円坂2-1-73大阪医療センター公務員宿舎134	090-9799-6855			

長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿

氏名	自宅	自宅電話番号	備考・卒業年度
井上 満治	852-8052 長崎市岩屋町17-1	095-856-2711	開業・S19
片伯部 貢	852-8132 長崎市扇町2-22	095-844-3034	開業・S37
佐藤 安雄	850-0901 長崎市本石灰町5-11	095-822-0321	開業・日大
鈴谷 悦堂	852-8033 長崎市緑ヶ丘町1-4	095-846-2052	開業・S19
高木 聡一郎	850-0801 長崎市八幡町4-18	095-824-0590	開業・S20
石橋 盟士	852-8155 長崎市中園町22-17	095-845-6181	開業・S30
大須賀 浩	852-8002 長崎市弁天町17-1	095-861-3576	開業・S30

長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿

氏名	勤務先		勤務先電話番号		役職
	自宅	自宅	自宅	自宅	
須山 弘文	850-0803	玉木女子短大:長崎市風頭1-13	095-822-8694		顧問
	852-8065	長崎市横尾二丁目4-5	095-856-1321		前法医学教授
尾崎 正若	861-1102	熊本県菊池郡西合志町須屋2740-30	096-242-2761		顧問 前第二薬理教授
山口 三次	852-8145	長崎市昭和町二丁目5-14	095-844-5272		顧問 前県ボート協会会長
吉田 恒雄	850-0811	長崎市矢の平町2-19-26	095-825-4979		顧問 県ボート協会会長
井上 健一郎	850-0045	井上病院:長崎市宝町8-9	095-844-1281		事務局担当
	852-8102	長崎市坂本一丁目2-5	095-846-2218		
西條 知晃	852-8501	長崎大学病院第二内科 : 長崎市坂本1丁目7番1号	095-819-7274		会計

長崎大学医学部漕艇部現役部員名簿

履修番号	学籍番号	氏名	ふりがな	出身校	メールアドレス (携帯)	入学年度
305123	20513123	中原 知之	なかはら ともゆき	開邦	tom.0131@ezweb.ne.jp	H18
306015	20613015	北村 健二	きたむら けんじ	佐賀西	k.health-second0412@ezweb.ne.jp	H18
306114	20613114	東 祥嗣	ひがし よしつぐ	青雲	wishingfortheeday0415@ezweb.ne.jp	H18
306119	20613119	藤田 拓郎	ふじた たくろう	長崎北陽台	flowershop-fuzitaku-55go04300@vodafone.ne.jp	H18
306127	20613127	松浪 周平	まつなみ しゅうへい	小倉	jack-pot.49010.xxx@ezweb.ne.jp	H18
307024	20713024	川口祐太郎	かわぐち ゆうたろう	田川	The_Zombies.0727@softbank.ne.jp	H19
307038	20713038	陣野 太陽	じんの たいよう	長崎西	jinpoo@i.softbank.jp	H19
307132	20713132	水野 貴基	みずの たかのり	春日部	tarao-ikura.0429@docomo.ne.jp	H19
308014	20813014	大井隆之介	おおい りゅうのすけ	長崎北陽台	the-12st-victorist77@ezweb.ne.jp	H20
308019	20813019	粕谷 泰祐	かすや たいすけ	明和	pouring-water.1354@swan.ocn.ne.jp	H20
308028	20813028	上瀧 善邦	こうたき よしくに	明善	az_u-re.m-o-n.44cj92@ezweb.ne.jp	H20
308108	20813108	丹下 寛也	たんげ ひろや	愛光	num.tang@live.com	H20
308114	20813114	朝野 寛規	とも の ひろみ	久留米附設	baa000403008@ssgr.bbiq.jp	H20
308134	20813134	三濬 正秀	みつま まさひで	福岡嘉穂	gu-tara_sherry0723@docomo.ne.jp	H20
309024	20913024	嶋打 周 龍	かもうち りゅう	ラ・サール	glimmer37@q.vodafone.ne.jp	H21
309026	20913026	菊田 龍	きくた りゅう	穎明館	ryu-tennis.love@docomo.ne.jp	H21
309047	20913047	竹田 一博	たけだ かずひろ	甲陽	p-o-oh@ezweb.ne.jp	H21
309101	20913101	田尻 昌士	たじり まさし	福岡大学附属大濠	hataesontyou@ezweb.ne.jp	H21
20110005	20110005	有賀 健治	あるが けんじ	愛光	ktmstar-911@docomo.ne.jp	H22
20110007	20110007	池田 英史	いけだ えいし	高岡	a-c7373.eee9-11.3330@docomo.ne.jp	H22
20110030	20110030	川口 雄史	かわぐち ゆうし	長崎日大	mow@i.softbank.jp	H22
20110047	20110047	佐藤 晋平	さとう しんぺい	高槻	summer-of-love.19677@ezweb.ne.jp	H22
20110118	20110118	二宮 直樹	にのみや なおき	青雲	n-aikotoba238bluetooth-h.m.k.u@docomo.ne.jp	H22
20110131	20110131	福田 龍一	ふくだ りゅういち	日本大学習志野	os.araragi.bros-yk.kisaragi@docomo.ne.jp	H22
20111002	20111002	新垣 慶人	あらがき よしと	愛光	jalanajtb@docomo.ne.jp	H23
20111008	20111008	上原 裕規	うえはら ゆうき	ラ・サール	flying-pig-spirit@docomo.ne.jp	H23
20111034	20111034	見嶋 知仁	こじま ともひと	大濠	faster_than_a_bullet_0307@docomo.ne.jp	H23
20111071	20111071	西原 聖仁	にしはら しょうじ	西大和学園	green_twilight@softbank.ne.jp	H23
20111072	20111072	西原 新也	にしはら しんや	久留米附設	deryc.k.w.0.core_respectsum@ezweb.ne.jp	H23
20111102	20111102	水野 弘士	みずの こうし	済美平成	1dd27e3fd78epd@softbank.ne.jp	H23
20111105	20111105	水野 龍史	むた たつひと	大濠	inside-beach@softbank.ne.jp	H23

長崎大学医学漕艇部 公式ホームページ

since 2000

http://wiki.livedoor.jp/chodai_rowing/

～ Google で「長崎大学医学漕艇部」で検索できます～

ボート部の紹介、試合の記録、イベント情報、
部員ブログなどを載せています。

OB 専用掲示板もありますので卒業生同士の連絡に
もご利用ください。

OB 専用掲示板 URL



<http://6523.teacup.com/tauring/bbs>

編集後記

初めに、昨年3月11日に起こった東日本大震災に被災なされた方々に、この場をお借りしまして心よりお見舞い申し上げます。

今回は田中先生の震災における活動報告を特集として組ませて頂きました。今なお原発や余震に脅かされている被災者の方々に対して、同じ日本にいなながらも、力足りず直接支援できないことを心苦しく思っておりますと共に、一日も早く復興し心身の健康を取り戻されることを部員一同お祈りしております。

今回で部誌「漕魂」は第33号となりました。OBの先生方や関係者の皆様のご協力により今回も無事完成いたしましたことを、厚く御礼申し上げます。今後とも、ホームページと合わせて部活の現状、現役部員の生の声を感じて頂いてけるように尽力していきたいと思う次第です。今後とも長崎大学医学部漕艇部をよろしくお願い申し上げます。

編集者代表 丹下 寛也

名簿の内容を以下のように訂正します。

氏名 _____ 年卒 _____

現住所 _____

勤務先 _____

～通信欄～

【お願い】

毎回、住所録の不備についての苦情を耳に致します。私どもといたしましてもできる限りの努力をしておりますが、特に若いドクターを中心として異動の多い季節に発行するという时期的な問題もあり必ずしも完璧を期し難いのが現状です。

つきましては、氏名・住所・電話番号・勤務先等に変更または誤りがございましたら、上記のハガキにて長崎大学医学部漕艇部まで御通知下さい。

また、通信欄には、ボート部に対する要望や、「漕魂」に対する感想など書いて頂ければ幸いです。